（芬明開色）窮理外傳　全

k 223

富士川文庫
400
KY

F
キ－33

400
K
No. 2876 旧 K 223

平賀源内先生遺稿
假名垣魯文披閲

（芬明開花）窮理外傳 全

東京書肆 萬笈閣梓

慶應義塾大学医学情報センター 昭和 年6月2日
富士川文庫
209

（芬明開花）窮理外傳序

夫森羅萬象の生活運動するや。都て造化氏の精巧にして。比擬ハ放下師の品玉に等類とせん。人心未開の往昔を。秘事と稱へ。秘方と號け。印可の巻乃相傳口授。一子の他ハ容易免許せず。方今文明の期に臨ミ開化進歩に従隨し。格物窮理をしらふるもなく。天機の洩る。網中に盛る水の

如く。地球ハ掌中に圓轉らせて。月見の團子に髣髴たり。佐盈放下師ハ秘室を開き。是者為斯如此成物と彼品玉乃種を顕し。割く砕いて観せしむるバの當世秘事や傳授の舊弊を一洗。新玉手箱闔閞て凢慮の量る所にあらず。凢眼の及ばざる。玄妙不可思議の理を傳與。造化の機關を看破せしむ。抑世界普通の理を。定理と稱え道

理と號く。曾て億長不通の理ハ。理外の理にして常理に反けり。此編窮理外傳と題名の謂茲に咸ぬ。此書や我國近來の物産家平賀源内鳩溪先生天笠浪人よりし頃。海外に漂流し。笠羅が濵の孤嶋に於て。風來仙人より授與せられし。秘書中の拔萃にて上梓の儘に書庫に秘し。故有て發兌に至らざる。虚空く星霜を古板と。

等は重々疊々かりしが克之を知る卞和の手。小土中の名玉世に出現光赫を發す期至れるに。看官の好機會何者か是は如ん僥倖甚しからずや。

明治五壬申仲夏

東京市民　假名垣魯文誌

文明開花窮理外傳　目録

一　家藏と手を付にし車の如く思を教
一　金銀を礫のごとくためるはなし
一　宇中はそうしも宇きて見る海をはなし
一　宇中川を越て星をぬすさんでくだる事
一　一間の四方二千百六十人を容るはなし
一　緒の悪鬼目に見えぬ魔法を使る腹膳の作り話
一　牛馬の也放下のはなし
一　宇中の鳥を手捕まとるはなし
一　百千の雷を放せる放下の事

一 笙火縄にあらぬをしへ
一 生糸縄にあらぬをしへ
一 竈の柄に刀組指の目利する事
一 翼なきもの虚空を飛せるをしへ
一 薪いらずにかりの沸く茶煮るをしへ
一 庵より流るゝ千年以上の宝をたやすく手に入る事
一 白髪を黒くするをしへ
一 ほゆるいぬをなずむるをしへ
一 盗人にぬすみを一生させざるをしへ
一 家内へぬすびと入らざる法のをしへ
一 細工かすりの達人をたやすく攦る事

一 楠の備小勢を大勢にかんずるをしへ
一 蛭をつひやさん百万遍をくる事
一 位なくして諸人のおそるゝほど威勢の附くをしへ
一 松杉を植て其三年のうちに日に作る大木なる事
一 手足を動さずして田畑をたがやすをしへ
一 口を閉てものいはずに不思議のをしへ
一 油いらであんどうあかるきをしへ
一 六月大雪をふらせてみせる殿下の事
一 真言秘密の二字儀妙法のをしへ
一 鬼神を略打する神変の酒の造りやうれ事
一 蛇除のをしへ

一 らうそくを宙にとゞむる法
一 笄わせずに紙糊なく石の鳥居潜の花表を通る術
一 三絃浄瑠璃の名人となる法
一 匹夫も天下に名を揚る法
一 一生貧乏にならぬ法
一 水の底ふかくあんどうのともれる術
一 刀の刃を握りて手のきれざる法
一 屋根のうへにて角力をとりて落ざる術
一 一切の持病を癒す法
一 百八十歳の齢をたもつ法
一 妖物に踊ををどらせる法
一 即座に甘き酒を辛くしからき酒をあまくする術
一 力なきものに五人張の弓をひかせる法
一 百姓の田地子孫に永く傳へる法
一 はらひ捨る金銀銭又もとへかへる法
一 婦人安産乃法
一 一人にて鳥銃百挺一度にうつ法
一 求ずして大安楽に得る法
一 文盲なる人も古哥の下の句の付かける術
一 人の名字の後世一字に住ある法
一 醫者の志らぬ大毒をうちけせる法
一 細き糸にて熊猪をつなぎとめる法

○堂塔伽藍のをつぶし事にたく出し妙術

くさりやく南蛮酒を作るに加へて経ぎ

め首を湯に注ぎ随分飲てなでくてう抜群

三寸ありて後夜ともそのてよ堂を伽藍に

さ川も同じ見出る社の神前の廻る等ぶんまわし

のさし

○金銀不相も除き見安ず[illegible]

一仙人はありやうの事

一大黒の打出の小槌を手細工作る事

一愁の玉をとり出し事

一大いなる禍を得る事

一一生楽をせざる事

一三尸虫を去り長命を保つ事

一町人百姓の系図を考へ出しやうの事

一便すに三国の宝を備る事

全部　惣目録畢

慶應義塾大學醫學部北里記念醫學圖書館

○堂塔伽藍、城手を不付して車のごとく廻る妙術

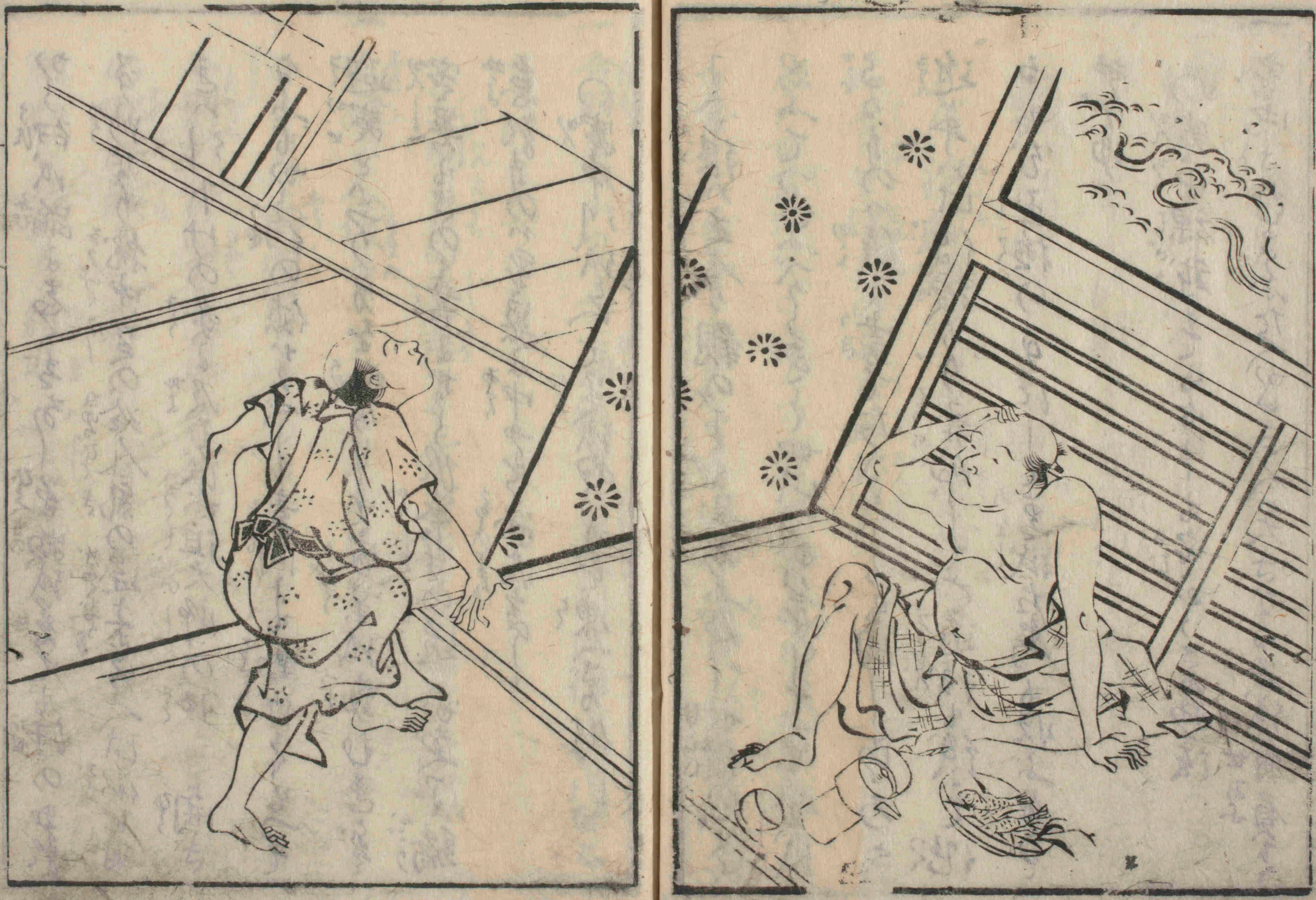
一 くこのかちくへ南蛮酒を等分に加へよき程にあたゝめ首を濡し程随に飲てさかさまになりて相撲二三番おどりて後座につきて見よ堂も伽藍も小さく山も同じように見へる程の拙者廻る事ぶんまはしのごとし

○金銀何程も望み次第財宝となる極秘伝

一金子何万両ありても皆これ紙に書付箪笥の中に納置べし何程金銀入用の事ありとも箪笥の通わくならば賤人には守銭奴とそしらるゝとも生涯樂く暮すべし是財主の心也されば金持金つかはゞ後持後つかはぬを矢當持先キへくはぬを醫者の不養生儒者の不忠信神道者の不正直坊主の不信心は世間おさだまりの事なり金持が金つかふ事になりては三年と立がたし此故に或大福長者の詞に金銀は主人か親のごとくに思ふべし奴僕のごとく思ふてつかふべからずと如此つかひをして一生金銀たまるものは紙に書てたくはへおくも同じことゝ近年は此傳授より聰明して道義も紙まで尽るもなき至極の事にして青砥左衛門も及ぶべくぞおぼゆ

○寒中裸にても少しも寒からざる妙法

一寒中にさむさふたへがたき人は大きなる石を背負



かゝる臼に蹈に志くはなし単物を着ても汗の出る妙なり靴中足の冷人氣の逆上する人ハ此術を用ゆべし下けの灸に及ばざる六祖大師の悟開きのふもかゝる臼の徳なるべし素問にも動作をもつて避寒とハ身を動かして家業を勤むべきぞ寒暑もさのみ苦にならず養生の道にかなふ也驕怠りあるものハ寒暑に中りやすく必病多し

○寒中川越えて足をぬらすも凍へざる術

一今羽屋へあつらへて油紙にて象股引を作らせ川をこゆる時はくべし

○一間口の裏店にて二千百六十人の膳立る妙術

一夫婦二人住居のうら店にても日に三度づゝ食盤にすゑまかなふハ風雨をきらはずかけめなし夫婦にて一日に別六人の客なり月に百八十人一年に二千百六十人の配膳積りにてハかくのごとし家業ハ一日も油断のならぬものなり維摩居士が方丈の室乃饗も右乃

術ばかりなるべし

○もろ〳〵の悪鬼目にみえぬ魔生ばかりハおもかげの作り様極秘伝

一古より画工のゑがく鬼ばかりなるに角を牙者ま眉毛と髭ハ氷柱の如く手足の指たらぬ所論ものにして虎の皮の犢鼻褌ハ由なきぞ理学の儒者ハ[illegible]におろして曰角あるものハ牙なし牙あるものハ角なして地の定法又虎の皮のふんどしハ日本の風に

あるぞと一口にハいへどいまだ鬼の極秘ばかりしらぬゆゑなり鬼ハ従来変化の物なれバ定法にかゝはらず角と牙とを具して他に勝れて慾の深きを表し殊に方角にてハ艮ばかり鬼門とて丑寅の方なりとし故に鬼の角ハ丑の角のごとく寅の皮のふんどしとハ古への画工の頓智より出たるなるらん然るを後世の人よりあるまゝ鬼の人相書をもつて鬼ばかり尋ぬるにハついに鬼ばかりなる人さへもなし古しへの酒呑童子大

高丸のたぐひいにしへの大盗人にて今いふ鬼ならねども都の人ハ怖れて鬼とよへしものなり仏説にいふ鬼も牛頭馬頭等の印ありといへども凡そ鬼とハ貪欲瞋恚愚癡の三毒、を意として放逸邪見のくせもの人を苦しめ悩し人の肉を餌食となして爰に於て人く身の終ひ、をぬく譲く髏髄の如く心ハ水晶の如くくもりなき鑑もまそ浮世をみんとせバ世上に鬼のをること一百三十六地獄の鬼よりも恐ろしたとへハ家を治めるにも圓とおさむるも人の苦労をゆりえんぞとて手まね傭子の慾とるも我ぞかし花莫とふめくらしむハ人の暗ふ鬼といふべし是をとみえるハ主の威をかり財寶、を貪る人を苦しむるハ閻广王を凌たてまし罪人を責る鬼なるべし是より町人百姓までも親兄弟親類朋友を食ふ鬼もあるて胸中憎むべき人の肉を切りさぎ盗を食ふ鬼萬燈鬼手代或ハ

親の辛苦をして儲たる金銀を子共の身が
して惜気なく色里にまきちらし或は酒興に惰
戯につかひひとて懶惰にして営生を勤めず親不
孝をぬきて遊興のみを日を暮さて光を
樂と思ふ馬鹿は親の生肉を切て啖ひて甘美
と思ふに同じ是に過る鬼やあるべきからず
平生の志が画にかくものなればこそ鬼の絵
もぐさよんノ何時かそろしかるべしと思えるに

釈尊は銭を以て魚を買ふも銭を以て魚を釣に同じ
殺生なりといましめ給ひて況や親の金銀を盗み
ぶりにつかひすて其罪魚を買ふのたぐひならんや
孟子は厨に肥たる肉をすゝんで獣に民の肉を食らふ
は恣むるなりとそしりたまへり親を喰ふ鬼子になりてゝ
地ごくの人屋を其んで閻広城の辻毒が焦熱地獄
の日雇人方が一に発心して成仏するとも銅羅
如来もとかくに家の尺魔なきまで帝分の夜をま

さぞ炒大豆は面につけて日毫は麻く

○牛馬を呑む放下の秘伝

一牛馬を呑んと思ふ人先てハのこかくし為粉をのむにあくハおもし其ことふハ外のすみハいかうぞ牛馬ハ画図にかきてぞ売て金銀にして酒は沽てのむべし此術にて馬牛に限らず見世も店も田畠ものこ尽すハ妙なり何事も種のなき放下ハなかりし魔法つかひが速利乃中へ這入

此同ド術と志るべし

○籠中の鳥ハ容易とりよせる妙術

一籠中の鳥ハ俗間の薬方に用る事多し是ハとらむと思ふにハ鰐が骸に泥ハぬり川岸に仰に臥には腹に出け眼をふさぎて居べし乞児の死骸と見て烏むらがりあつまるを捕へてとるべし

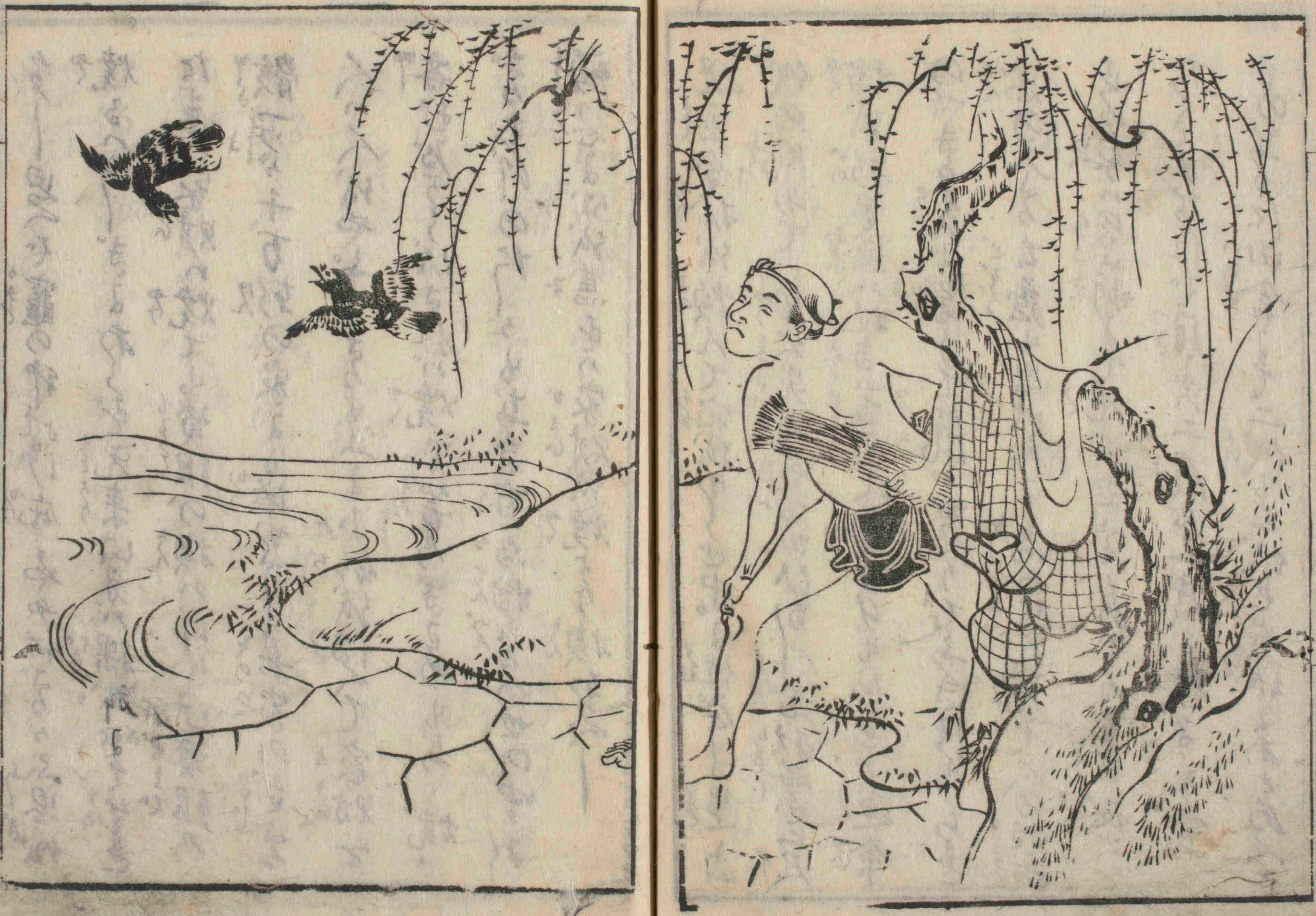
○何時なりとも望次第百千乃雷ハ鳴らし世

放下

一二階の上にてなりとも城いかにも立て置べし電光又は地震といふ花炮を投べし

◎一生火難にあはぬ秘法

一冬春は風も多く物の燥く節なれば祝融の祟もいぶせく夜の目も寝られずふんづかしくて若しをなやむ人多し就中富貴の家または財宝も多あればむづかしさも多かんめればかゝる人の為に秘伝の術を示す此法は田舎の家数すくなき在所を見立金揃を頼んで穴を掘り世中に住居し星上に代の風にて一生火災の気づかひなし其秋葉三尺坊を祈り或は札守を当て除るゝものも運命のつきる際に当りては風がかはりてふきかけらるゝも念の入たる土蔵も思ひの外に落るなりそれ人の住居する家は若薪にて作り立たるものなれば昼夜火をたくものなれど月に二度も三度も焼事あるべきものなるに田舎にて二代も三代も火難にあはぬ人も



多し思へバ竈の神の御庇なるや知ざるが不思儀
焼るもふしぎにあらず元来出身ハ裸躰にて生れ
たまへバ家財ハ焼ても資銀の損ハなし出資銀乃
骸一ツが千万軒の家よりも換がたし其家の主たる
人ハ人をやぶらざるやうに下知を伝へて家財を
吝むもあらバさればこそ焼家乃箸乃きれめもなく焼
ざるもありのたゞしもなき有為転変の世の中に
頓ッ心に心を焦すハ家財を焼より損あるべし

○一切水難にあはざる秘伝

一 水難を除んと思ふものハ洪水の節川を渡る事なか
れ道中にて幾日も滞留すべし路銀にかまはずして
後に損毛をせるとも銭を費むるとも命多
き舟ハいつとも待てのるべし長雨の節ハ窪凹乃
処に宿をかるべからずまして川岸ハ用心すべし是一言
の伝乃秘事なり火ハ顕しきものゆへおそろしく
焼死するものすくなけれど水ハゆるきものゆへ油断て

おぼつかなくもの多しと古人もいへり

○闇夜にて刀脇差の目利秘伝

一 わきざしか刀の鞘をぬきてこじりをさぐりて見るに丸きはわきざしなり角のあるは刀なり

○翼なきとりの虚空をとばせる妙術

一 拾間四方の風巾を作りて大縄をつけ縄の元を大木に結び並大風の起り野ぶせてあげてより下る付るまきろくろにてさげべし縄巻けまいハ天へ昇

るとも自由なり

○薪いらずに飯をたく奥家秘伝

一 薪は毎日ゐるものなり鍋はいらぬものなり一日に壱銭づゝの薪の損は一年三百六十銭上鍋を求る出銭なり随分とまきうちまき鍋を求て毎日あぶべし銭とかくべし飯のふくまる事妙なり

○唐より渡りたる千年以上の宝紙価一銭すそを

にの極秘伝

一　近年古文辞の学世に行りて書は西漢以上と肱にあられ勿躰らしきと今の書生野郎原唐人風をもちこみ猪鶏を料理喰に賞翫し鼻がつかへてめろくなぐらゐ川娘盃を態と無性にのむ、或は古学者の株と思ひしより滅多に唐物を好み和物を賤しむされば外国の器物を尊ぶものの多くは外国より来る宝、或は窮家の兆なりと京房が点書にも見えたり、然れば不祥の事なり、依て好事の少年の為にはつひへを省かむと爰に秘伝を記す、唐より渡りて久しき寶を用ゆ開元通宝の銭也、年数も千年余、之手跡は時の名筆欧陽詢なり、裏の三日月は文徳皇后の爪印なり、唐の高祖の緒正年数といひ手跡といひ唐物といひ天下通用の宝といひ誠に銭も外丸く内四角丸きは天に象り四角なるは地に象り四川の文字は春夏秋冬天地の徳備へし重宝

是ほどなる宝とすべき宝なしすべての富者も貧者も
おのれが鍵握りて蔵をつかさどるべし

一終

○白髪を忽黒くする大妙薬

一 白髪を黒くするには墨を黒くすりてぬるべし是秘方
別当実盛が秘伝なり其外に胡麻を用る方もあり
神農本経にも白髪黒きに変じ年を延て不老
といへる薬多けれど用てみんくまきかぎて扨も神農
のうそと思ふは誤り即商人のかけ祢大薬の能
書とみてちがひなし

一　○吠犬(ほゆるいぬ)をなくさしむる妙術

何(なに)成りとも食物(しよくもつ)をあたへてよしたちまち尾(を)をふりてなきやむる妙なり殊(こと)にむすび飯(めし)をころがしあたへるは猶(なほ)よし古人のいはく恩に報(むくゆ)るの徳(とく)を以て犬のよふな根性(こんじやう)の人も世(よ)にあるなしぞ心(こゝろ)得まじき事也

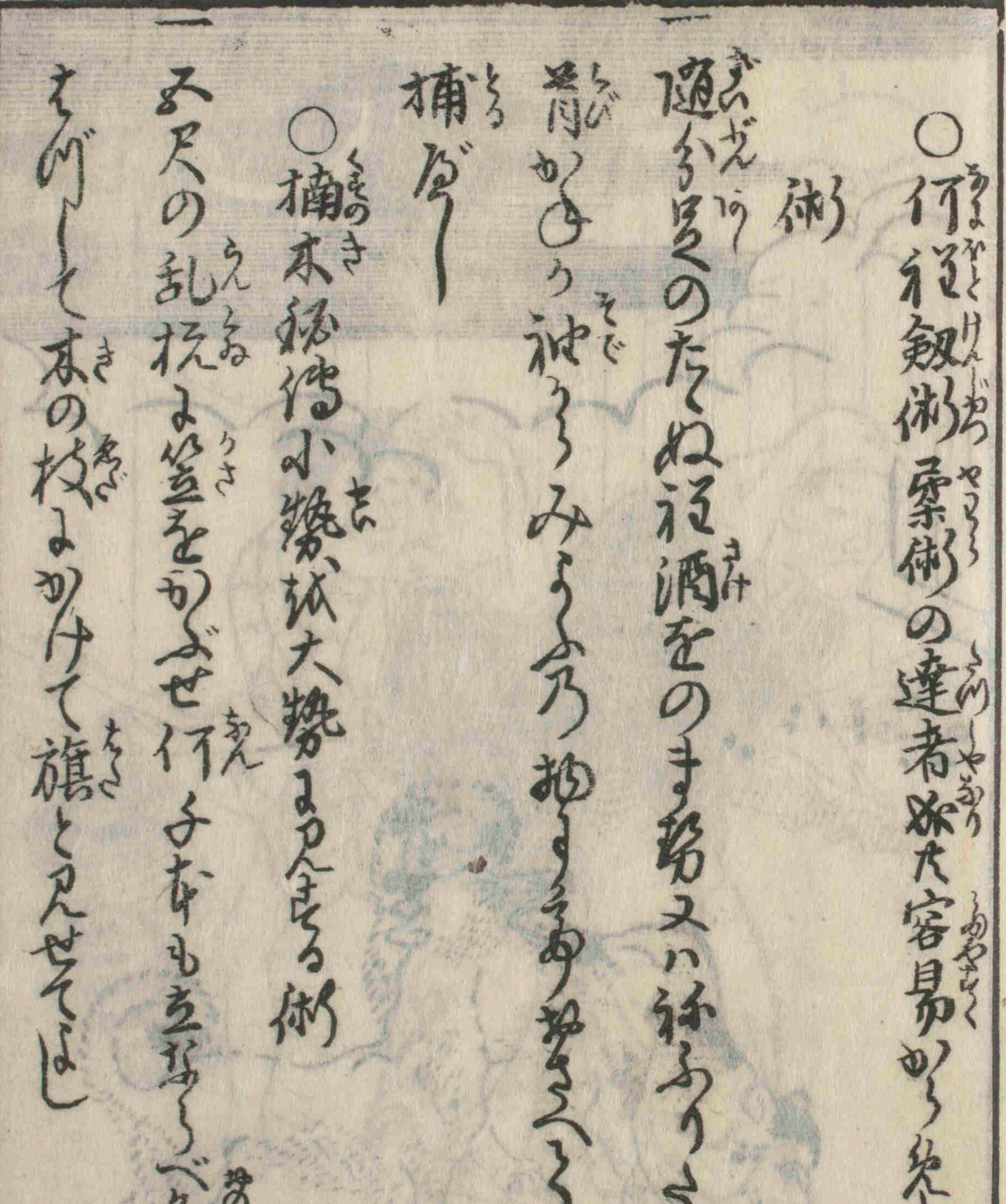
一　○盗賊(とうぞく)に一生(しやう)ぬすみをさせざる厭勝

一　盗人(ぬすびと)は危(あやふ)き命(いのち)を助(たすか)るとてもしやうこりもなく又ぬすみをするものなりふびんなれども外(ほか)に教警(きやうけい)もなきと見えて古(いにしへ)より首(くび)を刎(はぬ)るなり斯く官(くわん)に訴(うつた)へて法(はう)のごとく行(おこな)へばふたゝびぬすまざる事妙なり

一　○家内(かない)へ盗人(ぬすびと)のいらざる術極秘伝

一　盗人をおそるゝものは随分(ずいぶん)困窮(こんきう)なるがよし家財(かざい)道具(だうぐ)にも價(あたい)になるものを捨尽し戸さゝずとも大盗人(ぬすびと)の来らざる事妙なりされど貧(ひん)なるものはんにせいを

なく夜を安くいぬるに富貴なる人ハいつも心がゝりなれハして安くいねざる人も有し此ゆゑ貧ハ安くせんゆゑに富貴ハ煩ひなるに似たれど猶損なる事ハ明し古へ聖代にハ帝王だにもいとせまりしといふ宮に住ミ民も質素なりけるを驕ハ志らず此故に戸ごとに賑ひもいらざるなかりけり今の代にハ昇平の化にならひぶれし民なれバ堯舜乃御時にも劣らでよく慎しむべきぞ

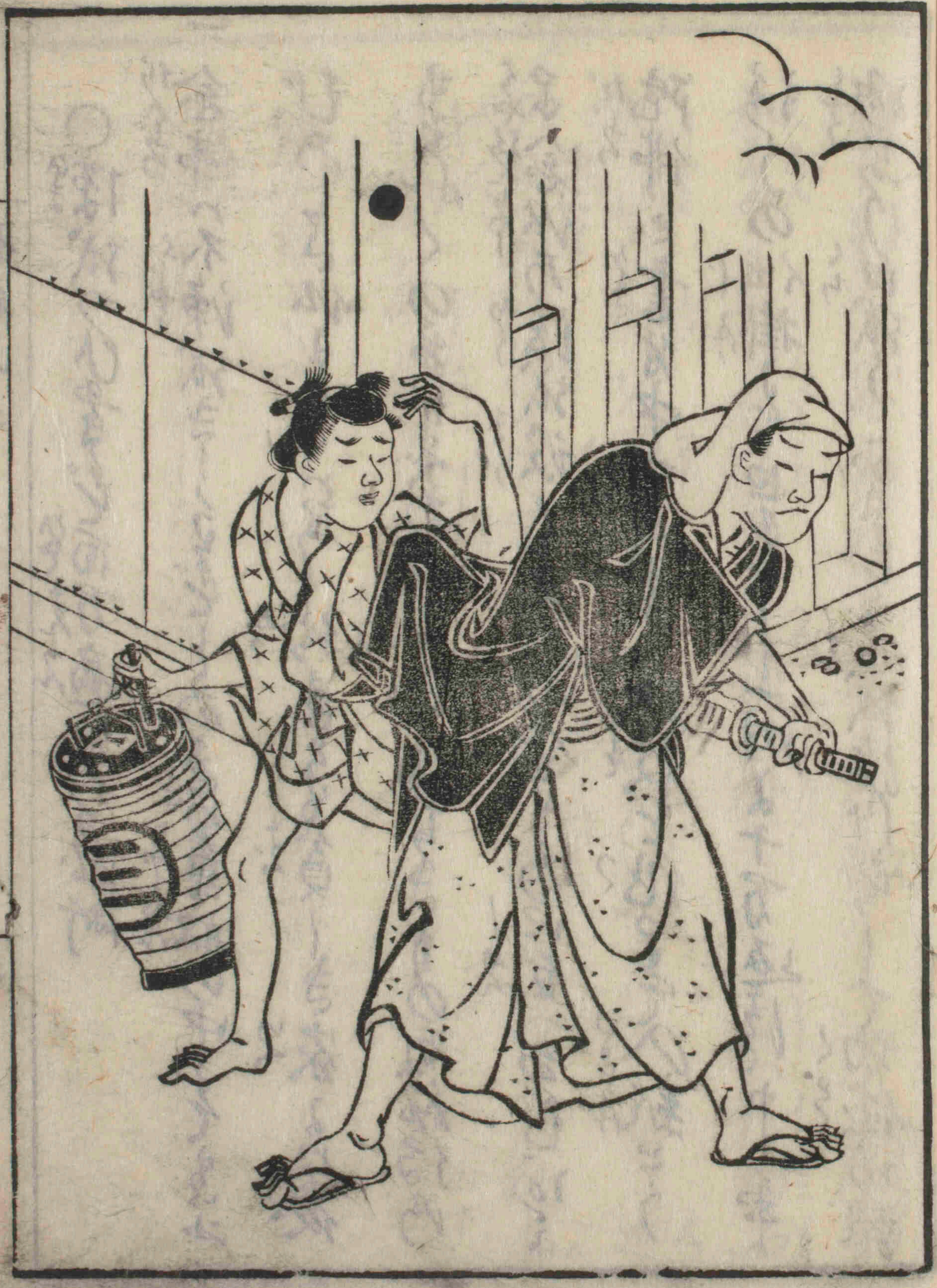


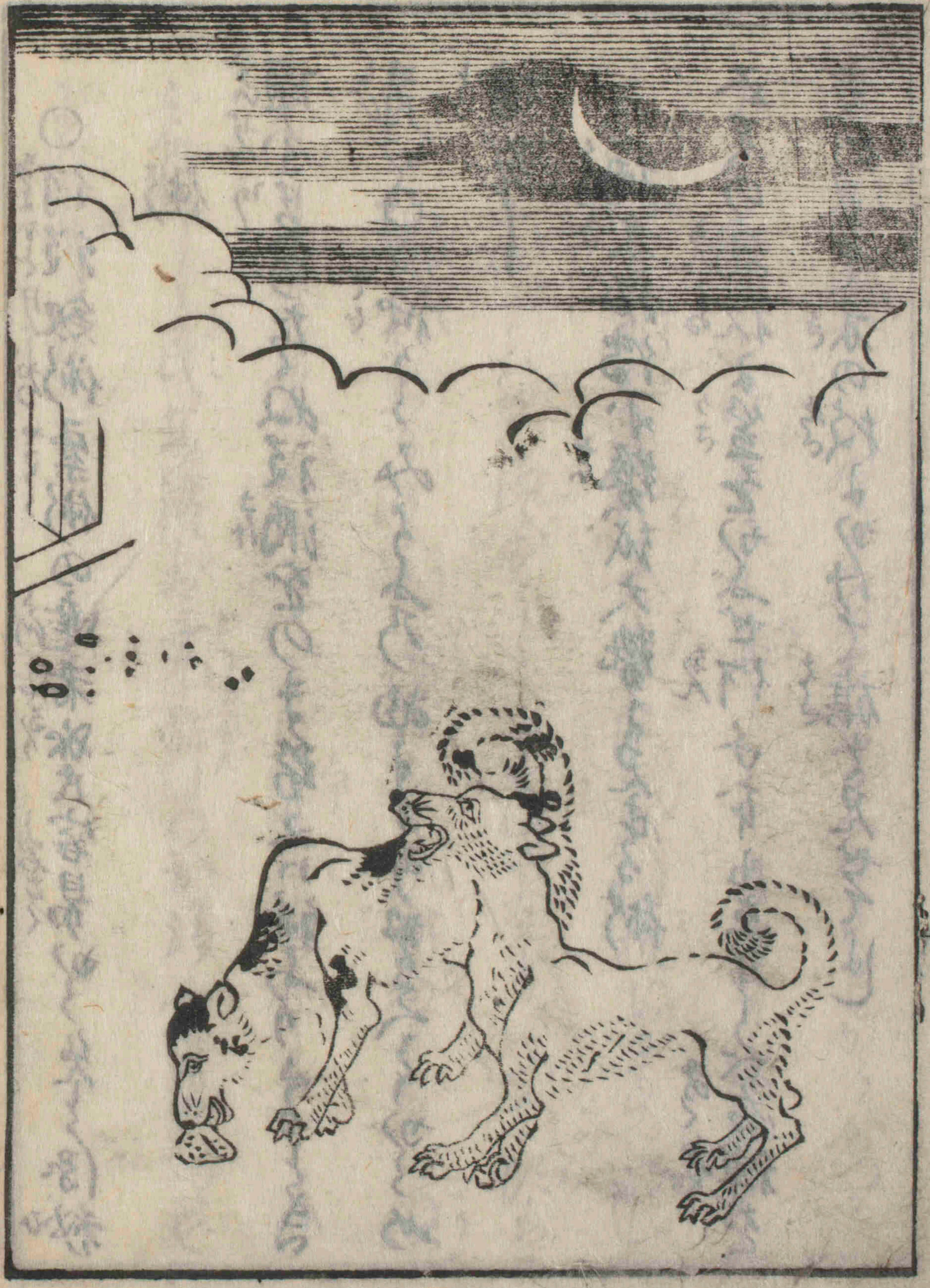
○何程剣術柔術の達者なりとも容易からず絶ての秘術

一 随分気のたゝぬ様酒をのませ酔ハせ又ハねふりゐるとき背かゝら袖をみぢかく搦手に結び合せてからめ捕べし

○楠木秘伝小勢ハ大勢に見する術

一 五尺の乱杭に笠をかぶせ何千本も立ならべ衣裈をさげして木の枝にかけて旗と見せてよし





○隙をつひやさず百万遍をくる秘術

一念佛ハ不浄をきらふといへどもわきまへ書斎の中にてそれなら
むかしは仏を尊くおもひし行者も貧しき家ニハ夜
もすがらの灯なかりしといふ灯なき折の夜秘傳乃
早念仏乃法ハ設く先ツあんどう乃紙面へ南無阿弥
陀仏と書付中へ紙にて珠數を作りて入置とう
籠の仕掛にて廻るべし一時ニ十万遍ほど事
妙なり口ハうごかさずとも手ハ法ほどにして功徳ハ同じ

事是よりかまへおこし是より変して女の糸車
水車より風車皆百万遍ハ仕掛てよし右へ移しても
椿山に幡ハ揚めて附出入の尾ハやとひて二万遍
の日課ハ頼まる是ハ念佛日傭乃始といふ
僧都ハぬし乃示現によりて竹乃先きに珠數
ハつけくるくるくりハ始られ何ともい菩提
の縁となるやさへるまも満さるゆへ口にまかせて
南無あみだ仏

○位なけれども人に恐れらるゝ通屁ひりゝゝて通る術に威勢の付く大妙薬

一家がらに威勢屁つよく通屁ひりかせんと思ふハ愚痴と無理と喧嘩とこの三昧に牛糞の梅干を加へて温酒にて二升程のむべし其後悪對をつきながら町内を通るべし行来する人にあたる事妙なり飯見よてきかざるも骸に糞を多くぬりてあるべし武士もよけて通る侠組も手を指すにはあらざれども是を以て考ふるに人によけられ小人に恐れらるゝは武家は格別町人百姓は長男に臭気ありとよけられ牛屎の敷なり自首て恥屁あるべし

○松茸屁植て三年の後の内に作取大果にもとて取極秘伝

一地の廣き処屁見立松杖を多くうへ或ハ其外の木桐れ来着のそばち安き本屁うへて七年の内に伐て

繰て價もそ錢はなるべき神の大本が求むべし

古人の曰十年の謀ハ木を植よと

○手足をうごかさずして牛馬の力をかりずして鋤鍬を用ひずして田畠を耕す妙術

一　士農工商の働のなすべきものハ口先きまで口が耕しより外なし一日口が利ても舌ハ磨きぬが重寶なりまづ講釈師談義僧もよく下りてハ大豆藏同羅ぬ來も農業がつとめずしく皆米が食ふ古人も是が舌耕といふ舌れ先で田が耕たらすものなり

○口が閉て居てものをいふ不思議の術

一　蘇秦張儀が辯がかりても滅多に金ハ儲さずして幸錢字貢が切り口上ゐをゆずんをせぬ今の世ハ中利口自慢よ鼻が高くしてもぬ遊の臭がかくぬるる利口の男の益またぞ熊野牛王ハ默して居ても人が怖がり何が言や天ハものいはずして四時行ハ百物生ずしけ

故に君子は言を以て人を不挙足巧の言は徳を乱る
ゆへなり禍は口からおこる故に利口の邦家を覆す
を悪と孔子も叱り給ふ南容は口より外へ出しあやまれ
かつてぬる事を恐れ白圭を三復する故孔子は孫を妻し
給ふ古へは躬の逮ざるを恥て言を出さず今は口ば
かりにて完を見出す世なれば孔子の秘伝も小人
は口を以ていふ君子は行を以ていふとあれば口を閉て
居て拙をいふて事の略すなし香厳樹上の話も足

より工夫すべし

○油いらずあんどうあかるき法

一 かはらけは鉄を用て度々をかき紙の煤を満内まで
まろくよき油を求めてあつべし

○六月大雪をふらせて見せる放下

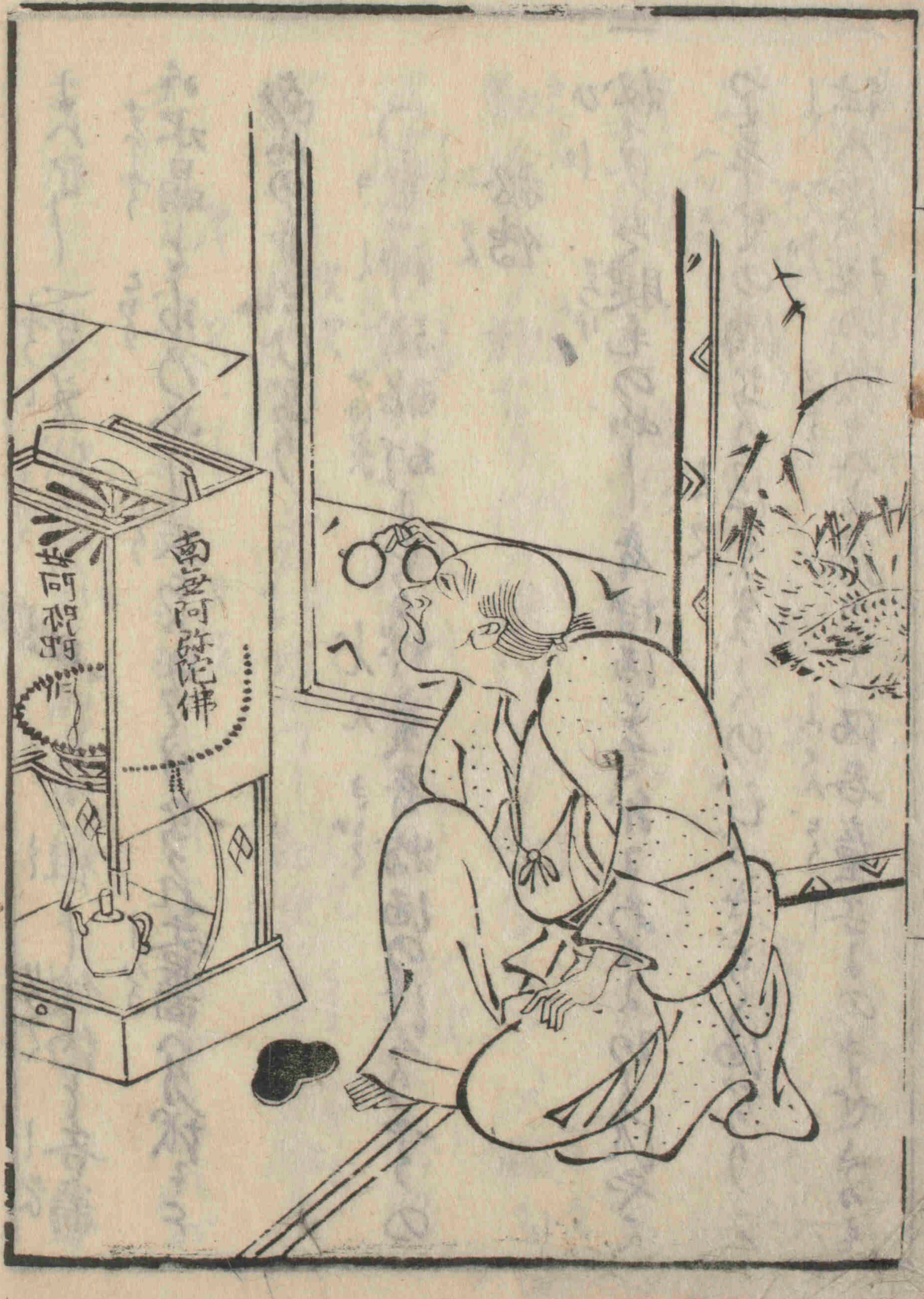
一 つき山へくりこを多くひろげてよし俄雪の如く
見ゆるなり

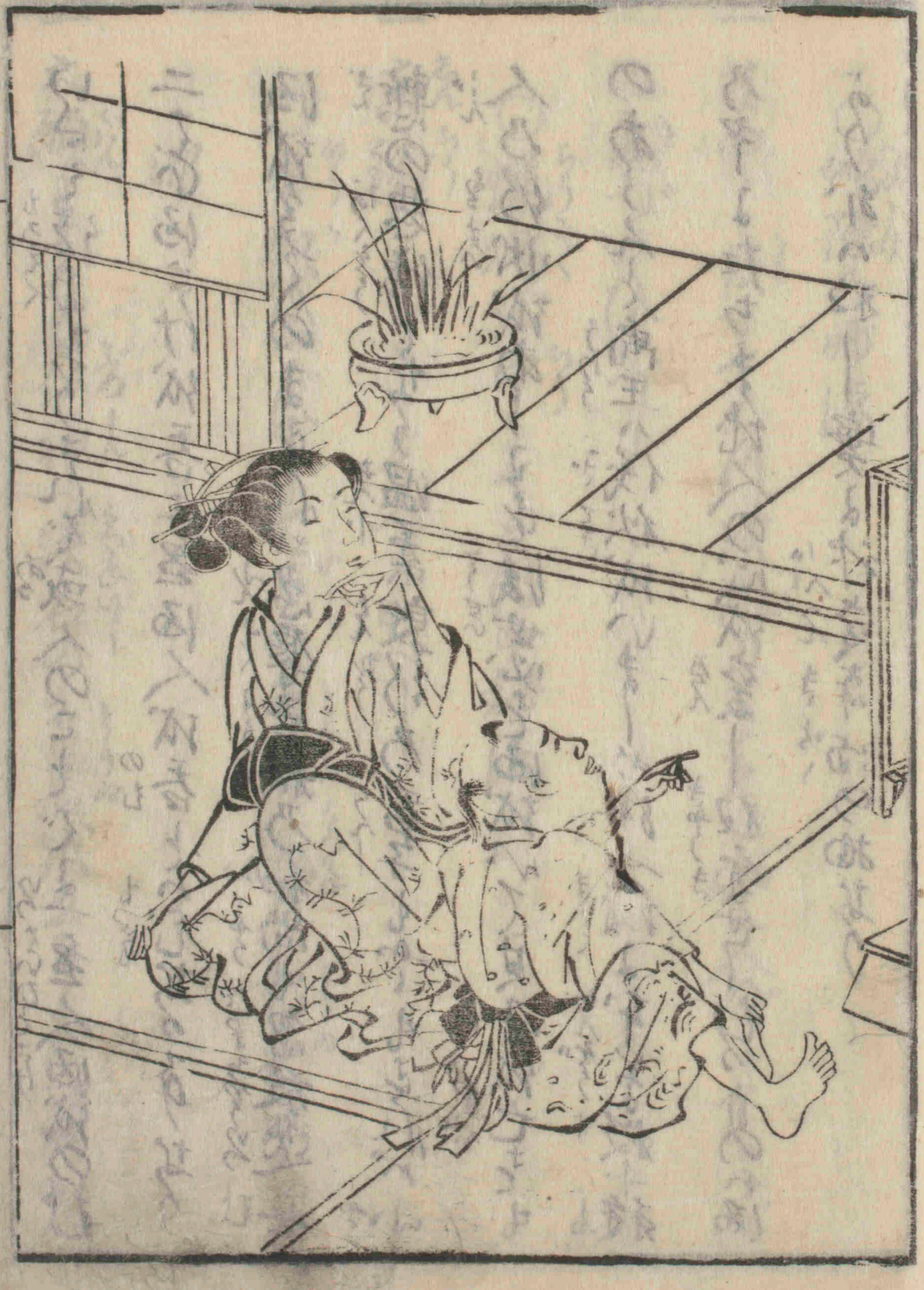
○真言秘密二字護身法の口決

一　真言宗に伝ふる九字ハ道家より出て貴き呪文なれども世人毎日の用にたゝず不佞が伝ふる所ハ日用の肝要真の云なれバ商家に悉く覚べし其極二字とハ勤倹なり勤なり倹ハ倹約なり勤ハそれ〳〵乃職分を懈らず勤るなり倹ハ倹約の事にて聖人の徳なり勤めても倹約をせざれバ功なし勤倹ハ車の両輪の如し凡そ家に住むもの貴賤をもいはず二字をせざれバ家をたもちがたし豪富になる秘伝をいはゞ二字より外にハなし一生身を護の秘法なり但し倹約と吝嗇。ハ水晶と氷のごとし取ちがへるなかれ吝嗇ハ身をそこなふのもとひなり

○鬼神を酩酊させる神変奇特酒のはかりやうの
　秘伝

一　秘事ハ睫毛のごとし奇特酒とて外にあるにあらず凡そ只平生の酒なり随分多く〳〵のむがきどく酒なり三社乃権現の頼光に語りて酒呑童子にのませたるも


南無阿弥陀佛
無阿弥陀



いさゝ遠白なりきんして或人のことばに一盃人酒をのむ二盃酒さけを呑三盃酒人を呑とは尤なる事なり酒を多くのまざれば忍辱柔和乃和尚も忽放逸無慙の悪僧となり温柔敦厚乃君子ももゝくもまれば小人乃行状をあらはすまた後世必も酒を以て其国を亡すとものあらんと禹王ハ儀狄をいましめ給ふ誠に萬象乃中にたちまち他人の心を変し狂気せしむるものハ酒よりかハなし實に神変奇妙の物なり

○蛇除乃妙法

一　なめし皮にて足袋を作りてはき山に入べしまむしへびの気づかひなし

○蝋燭を中にてつがせ秘法

一　烟硝をかりがねにてつるべし

○奉加をせずして石の鳥居或ハ花表を立る術

一　大願よりて仏神へ鉄石の鳥居を立るまでに

乃る君ゟの塵に合すまて作るべし石の花香ハ柔なる石を小刀にて削砥にてとりて小く作るべし無理なる勧化筆加せずして建立よりハ功徳勝り貧者乃一燈も福者乃万燈も同じ功徳之

○三弦上瑠璃乃上手になる極秘傳

一三弦上るりの名人にならんと思ふものハ始に銅鑼といふものゝ鉢打習ふべし此れより入門せざれバ上手になることむつかし其後の手練ハ武士も大小を捨農人ハ田畠を捨職人ハ細工をすて商人ハ見世店を仕廻浪人となるまずく精を出すべし必名人となるなり妙なりされバ三絃ハ古へなき器なり名器代に出されバ楽器の列にまいるべかりしが末世に出て銅鑼乃道具となりしハ彼が不幸なり琴や笙乃たゞひさへぐる抱が曲を作れバ鄭衛の淫声とて甚害をなすゆへ鄭声の雅楽を乱るを悪むと孔子も腹をたち謡ふ音曲の人を感ぜしむる事を

弁舌乃及ばざる所なり琴の俗さへ淫声多しぞかし
興して吟ずるにたへざるを演して三弦に移く於や百年以
前まハ盲人妓女あるひハ児の弄翫と作へしが今ハ貴人
もひそかにまなびてみるようになりしハ淺ましきる中之上品
にもむかしハ文句も節も今のようにあらざりしを今ハ
鄙俚猥雑になりて人乃前にて歌ふ氣になきようになし是
試感じして吟ずる人ハ氣もつかずて害、成なきを狐と云て狐に
だまされハ害もなく狐とも云ひして狐にだまさるゝ

ハ溝に沈むるなれバなり我人のいふごとく悪藝ハ悪
縁に引て下る上藝ハ善縁に引て上るとは此なり
三弦上留里が胴縁の縁となりどらが悋戯乃こち
ひきとなり悋戯が盗の基となり盗が不義不
忠不孝喧嘩闘争と大酒し我志らず夢うつゝの
ありさまとなりてよき方へ上るまなし是も甚だ嫌ふ
事をしる者に金言耳に逆ふ事まちがいなし儒中を
仍初よいふ秘傳の通り是を以て果して発原類

萬幕下に属し立身して名誉天下にゆる
まじく候

二終

○匹夫も天下に名をあらはす立身の仕やう極秘伝

一今泰平の世の中なればたとへいかほど才智あり
とも一ケ国も名ハ揚らまじぞ韓信が智謀をたくましく
千人の勝をぐりてもゑぐり撰るとく善をなすとも
並や大体の者まで名ハあがらぬ別に智恵
事の仕やうもなけれバ中〳〵隔り気る
うらまずとも是といはすも　太平乃拙げ氏尤

生捨てハ山林に身を隠していくさをのがるゝ世渡も
なし出家遁世して武士を捨るも及ばず商人ハ
商人百姓ハ百姓浮役人と世をおくるべき手柄のな
き世なれどわりがさきるはなしされども当世に名
を揚んと思はゞ上手なる役者になるがよし長
崎より津軽のはてまで江戸の海老蔵が名を
しらぬものハなし床に衣裳の模様より髪の結
つき詞のつかひやうまで江戸中の鏡となりて皆

其風をまなび男女老若を変じて役者の贔屓
を争ふにいたりて誠に移風易俗聖人の楽にまさり
名を海内にひろむるもことはりならずやされば伊藤
荻生の学才も活た内ハ人しらじ今しらるゝまでもちん
ぷんかんの仲間ばかり何れの藝も郷達捷径
なるを役者をかりしりても其威光何となく草木も
なびくよふなるぞる[illegible]しかし

○一生貧乏にならぬ極秘伝

一 凡そ生あるもの死あり春夏ある事は秋冬あると
金銀は定まる主なし主が定りてあらば世上乃
用にたゝず家も一生のかくへとのあり車と金銀は廻る
故にかく宝とも車が廻ればこそ金銀が通用なればこそ
何の用にかたゝべき豪家の永代金持で有人も
思へども零落なるものあり元来貧乏となるもあれバ
金人になる気づかいなし是一生安心になし此妙
法なり此度は古人も貧と富は失あるべきとい

へし

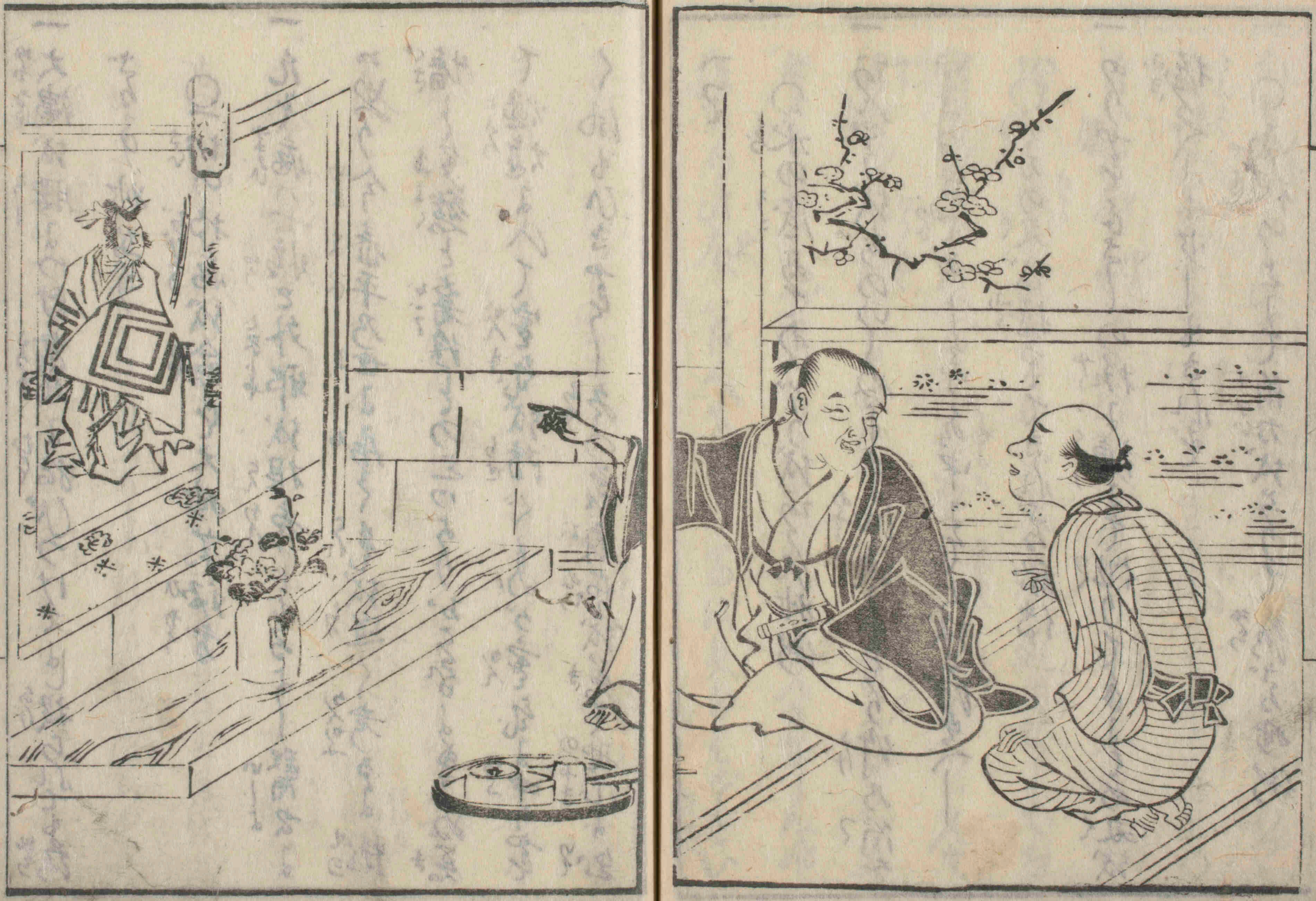
○水の底にてあんどう火のきえぬ妙術

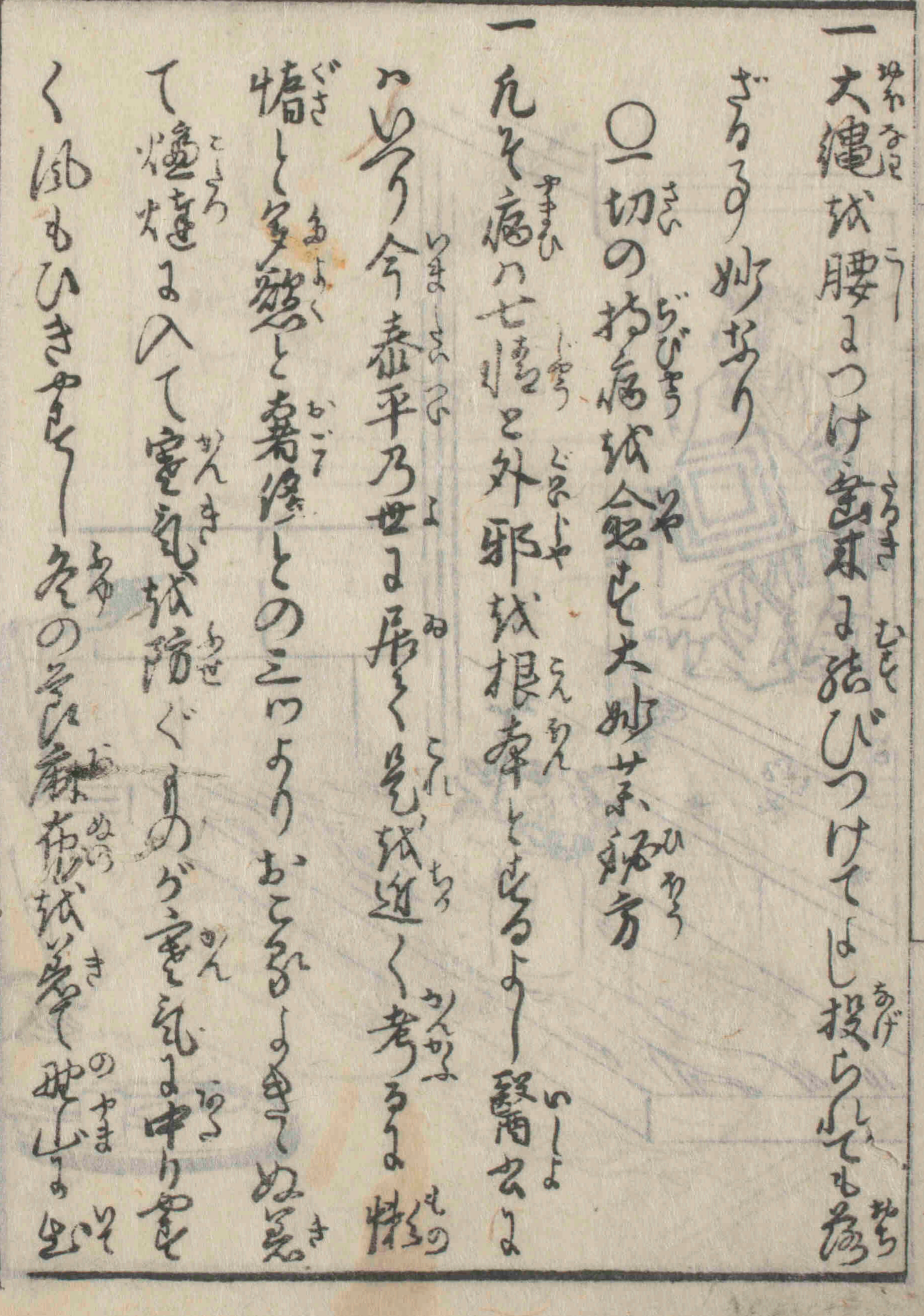
一 あんどう火あかりのいらぬように油紙にてはり竹乃筒を
いきぬき穴にしかけ水中まで火をとぼすべし

○太刀の刃を握りてきられざる秘伝

一 めりやすさしの指に鎖にて作りてはめる刃を
握るべし少しもきれぬぞ

○屋根のうへにて角力をとりて落ざる妙術





一大瀧が腰につけ寐床に結びつけてよし投られても落ざるの妙なり

○一切の持病や命をも大妙薬秘方

一凡そ病の七情と外邪が根本となるよし醫書にはいへり今泰平の世に居て之が近く考るに物憎し色慾と奢侈との三ツよりおこるよりきてぬ気て焦燥に入て寒気が防ぐものが寒気に中り寒をく風もひきやすし冬の其麻布が着て野山に出

ごくなることくめのはきりして居る病なり炎々と天にてるされば日々にちかくなれば暑気に中られものきぬてもぐしきる座敷に扇もはなさぬものゝ暑気にもたへかねしかも中々堪忍し又淫慾食慾睡眠の三慾も病の発るゆえなれども身をたもつにはかし暇なきものは自らが慾もうすく鳥獣の病なきも身からごとしていと病なき故なり流水の腐らざる戸の樞に虫のつかざるも其生の用にかなふゆへなり死

生命はかりといへど寒中の雪は小麦に積てもまもるは寝覆へは去までたもつ峯の松は湿地に植ましきを植るは凡に八百やがは筍茄子の類へは凡ては人の命をたもつ事も秘法にのつとるの類なるべし長命はたもち持病は癒もへは農業の働ほど良薬なるものはなし然れどもくるしき業なる故上品の人は用ひかたしとはいへども命とつりかへなるは思案あるべき事なり又農作業のたぐひ是に似たる働あるべし何遊

ともつとむべし殊に気積食積疝積血塊抔いへる痛疾苦蔓流乃下し薬すても元気のぬくるぞかしなり平和乃薬それは牛の角に風吹ほどにいつろも是等の人農業数は三年用ひ蔵麦は食ひて魚鳥凡肉は多食せば氷に湯はそそぐがごとく病は減ぜざし然れども上品の人は飲よき薬なきは始の経いかしつて用ゆべし是神農黄帝扁鵲倉公などいへる名医相伝の極秘方なり

○百八十歳の齢をたもつ極秘伝

一　強て欲を張て長命をたもたんと思ふものハ昼夜眠らずに居るがよし一日にても二日の意なり夫九十歳活て百八十歳の割合なり東坡の云く無事にして静に座すれハ一日ハ両日に似たり年七十を活て便是百四十名づけて一味長生飲といふ也

○妖物を躍らせる秘術

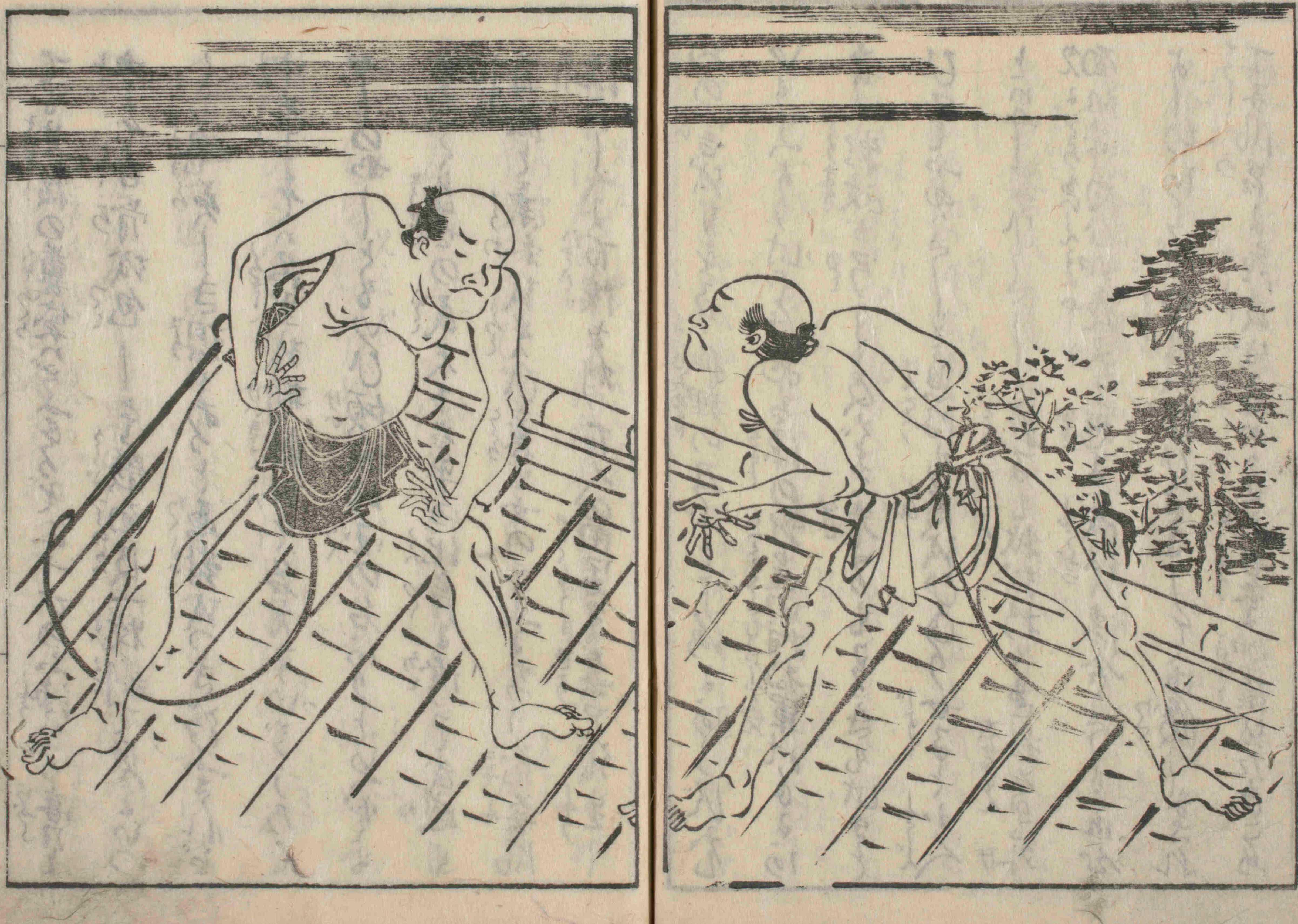
一　近くハお猪入道といへる悩天窓濡頭ての茶碗さけ西の肴に田楽舞を好しより天狗の妖怪じみ地どり遠くハ清盛入道法躰乃身なれど佛ごぜんに舞をなせ妓王妓女に地どらせしハ遊女に魅惑さるゝにあらずや紅粉を面に粧ひても不艶女も志ほらしく老も若やぎ一限化乃手際をあらはせけるゆへ妖怪乃妖の字ハ夭女と書けりその化物根元をしらざるものはばけ物に迷はされ生涯をむやみにおくりて古今其数をしらずぞ漢乃高祖

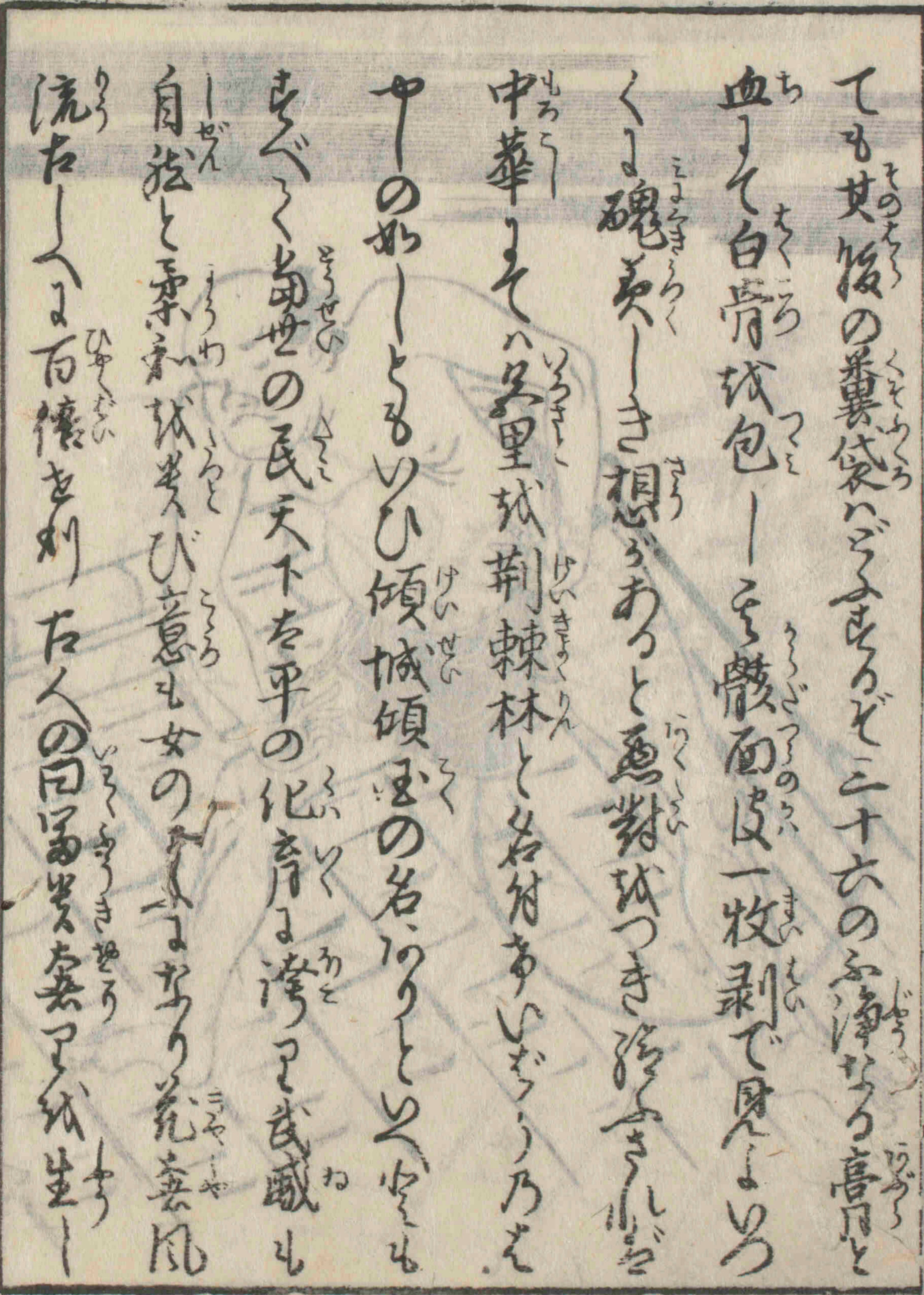
乃大智ありてさへ女房にしてハ呂后が悪心を見ぬく事あたハず高祖崩御の後甚だ害をなせり頼朝乃上總の五郎兵衛悪七兵衛が見出し眼力にも政子の根性を見ぬくる事なくさまざま御縁家へうつりまさり殷の紂王ハ妲己といふ女に眩惑て天下を失ひ武烈天王ハ玉藻の前にだまされ天下を失ひし妖狐乃まぎといふ憑へしハ狐仲間の甚だ迷惑臓頭の鸚鵡まであちの移せしものなり。

況くものならば人間に恨ハいふまでもなく狐さへが彼化物乃毒氣に中さハ覺えずも侠然と名づけて悪風と云ひしむう展轉ハ釋迦も黄色の涎沫を流し達广もさてきの眼に涙を滴してその他の九尾狐や狸近く妖物ハ見んむと思ちて先ハ金銀が先きに手川だけ化物屋敷乃女郎に京北島原大坂の新町江戸の吉原そまより出て来る平なき所なれし其附隨の眷属に牛といつわりし

のぞけもの面皮を厚くして知りたがるの白なり花車とハ滅他に継たゞ今の花猫乃鍾上つまりをる人を絵具に揚る下ごしらへ梅川忠兵衛の縁を取持太鼓ハ人に身上をつぶさせる因縁をまとふ。あそびハ主親乃血の汗を流して儲し金銀を惜気なくつかひ捨丸毛を風巾の糸よりも長くして此しをと思ふ戯気も黒虫を赤飯と違ひ馬糞を団子とおひ狐の小便を酒なりとして飲でし眼前にまざみ

物の害をなすもの狐狸の及ぶ所にあらず。さぞもそも昔より化物を源の頼光田村将軍ならまよのまた頼政が弓も及ばず老るもわかきもしまをひのことおもふとしと兼好も首をひねり女子と小人とハやしなひがたしと孔子も我を折るまで釈尊も外面似菩薩内心如夜叉と悪まれ玉ひ仏の法合ふこしと成るよしのゝ桜ぞめ真の身へ根ひきまして渡しなされ丁子風呂に座敷を春めかせ衣裳に伽羅をたきこめ





てもその嚢の糞袋ハどろすまつるぞ二十六の不浄なる腐肉と血にて白骨を包し其髑髏面皮一枚剥で見なれバくに魂魄かしき想があると悪對をつきさし汚らしき中華にてハ色里を荊棘林と名付あいだうのものの如しともいひ傾城傾国の名ハありといへどもまぐろ当世の民天下泰平の化育に溢て武蔵も自然と柔和を兼び意も女のごとくになり花奢風流に人に百様を刈右人の口嗜男妾て生し

着ても淫乱を生し淫乱病を生ぞ其誅なるの外虚労骨蒸の病ひ古しへまましなきかりに今ハ民間に生く多きなり古しへの百倍ならも治るのの百に一つも治し難し皆淫火骨を焼のまぼろひなり惣て婦人髪の円昌の世なればハ男も女の風俗を学ひ裾長く袖ながく身の也り皆女らしきをよしとすれバ女はかへつて男を見下し男の風俗を持廻し衣服織を鳶し眉毛ハ文徴明風の剣刀に切てそりとしつけは赤坂流

の奴とさて馬耙なる櫛をさし臈械乃やうなる
笄ハ像の眼もはきそふなり前髪より家英な
とつかひかぬ風もちかける身上ぞ苦労する稚女乃権
威が泥中より出し牝鶏が時を報ぐ亭主乃耳には
入らぬが奇妙なるゆゑ古人も美人ハ愈毒ゝ気
多しと恐れ呂氏春秋にも蛾眉ハ伐性之斧
なりとて美貌よき女を斧にたとへ家の身を伐
らる事を恐れしより世話にいふごとく女乃心と秋
乃空ハ日に七度の晴曇ありて狐乃性、嫁となるをとして丈
夫乃身として指を切り時を噛ニ世乃契りを天に
誓ふ闇走児らハ思案乃外といへど一旦思案の内
なれども思案袋乃薄き人なり火に烈火あれど
石へハ流れず水ハ潤せども金へハ湿らず古人も妖ハ徳に
勝ずとあり正しき人にハ近よらず

三終

○即座（そくざ）に甘（あま）き酒を辛（から）くし辛き酒を甘くする

法

一 甘（あま）き酒を辛（から）くするには唐（とう）がらしを入てよし又甘くするには沙糖（さとう）を加（くは）へてよし

○力（ちから）のなきものも五人張（はり）の弓（ゆみ）を引秘伝

一 弓を柱（はしら）に結（ゆ）ひ付（つ）け弦（つる）に綱（つな）をつけ轆轤（ろくろ）にて巻弓（まきゆく）を引き矢（や）をつかひて後（のち）弦（つる）につける縄（つな）を切（そ）りのに

く切ツくをあり何程乃こともひろまればとくいかるナ邪し

○百姓の田地永く子々孫々に伝へる秘伝

一田地を永く子孫に伝んと思ふ者ハ年貢租税の多く出る田地を譲るべし作徳なき田地を売ても買人なし質にとる人もなきゆへ自然と子孫に伝ることあり是漢の留侯が伝なり

○はらひ捨る金銀銭又手前へ還る子母銭乃秘

術

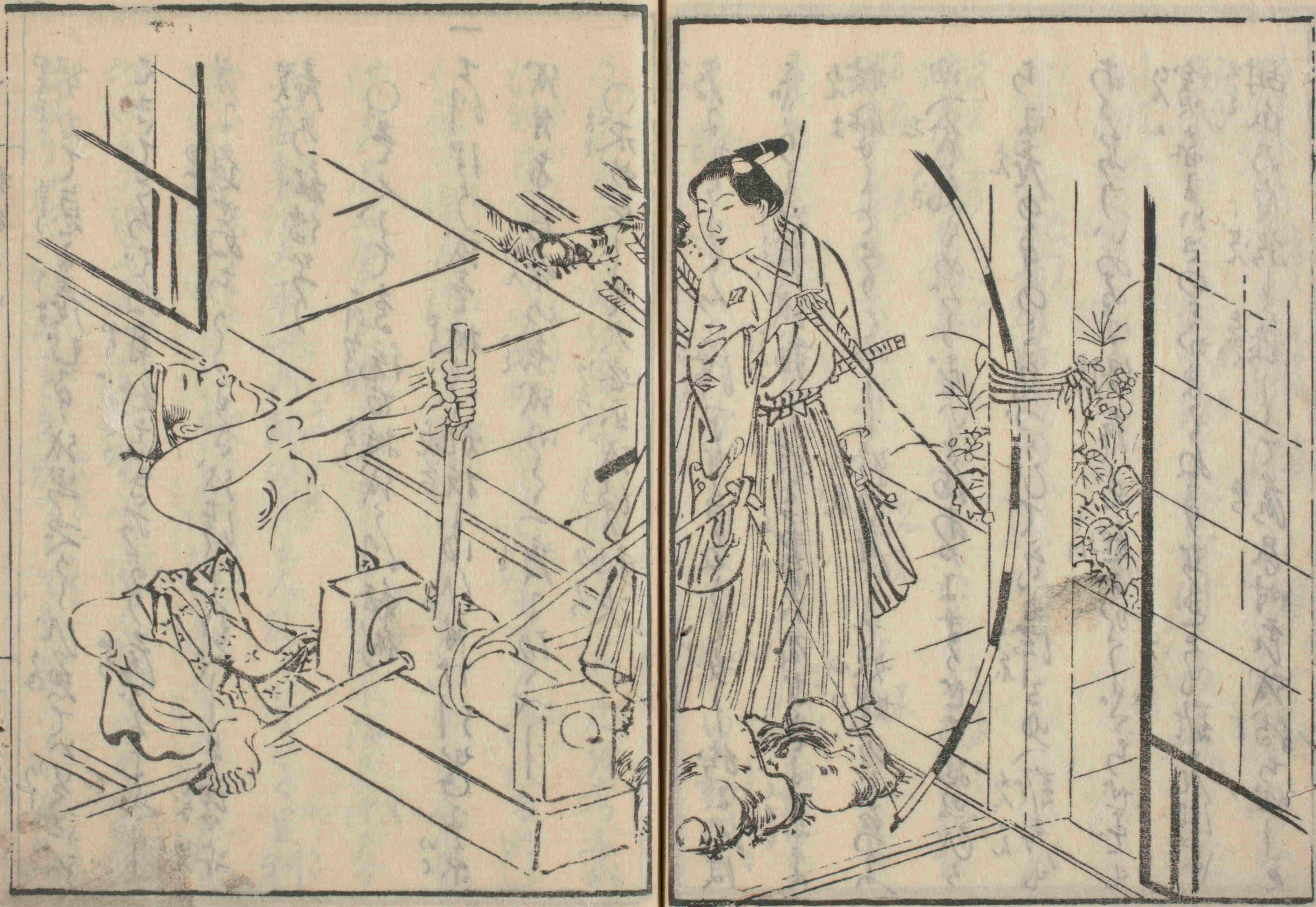
一もろこし乃淮南が秘伝に青蚨といふ虫の母と子乃血を八十一文にぬりて母と子の血をぬりたる八十一文銭一方を遺しおきハ久しく生に子母お慕ひてつかひたる銭又元へ如へるといふ術なれども是ハ迂遠にして近きの極秘伝なり武士ハ己が勤の道を苦しきとせず酒色を金銀にふきかけ立てはらふ商人職人も各其の分限乃働を骨折苦しんで儲る時の息

かけ百姓ハ炎天に働て流しゝ汗を金銀にかへて陰手ましき盃義理にあさがけるつゝふくそんよ自然と又天へかへるなり

〇婦人安産の妙秘術

一　安産の法ハ畜類になずらふにしくハなし畜類ハ数多く毎年子をうめども難産なし既にこの
ことわりハ牝牡交合せバ馬ハはらみて後牡馬を見ても蹴るそばへ近よらず是を護胎といふ動作も

常にかはることなく滞なきゆゑ安し然るに人ハみだりに欲火を動し殊に富家ハ衣なきに薬に按摩などとりちやし昼寝して奴婢のことつかふゆへ食気もめぐらずいと油あるにまかせて抱思ひらちに産のすゝみのこともつかひて気も滞るゆへ難産もあるなりいぬるに側たゞ起にかゝずくちせすども貧家にハさのことかまはぬすなほも難産ハなし甜瓜の自然と熟して蔕の時を待ち必しも



努力て急に産むる事は思ふべからず只急ては足の一致たきてさろだぬ男女言るきたより落ざるに在男子に急せぬちからさず是清しむべし気皆安産の秘伝なり

○是人にて寄玩百挺の秘術

一　川ほうの是を挺清く乱抗るゆひ射け引き事に気の背は百の系の数いとく一度にゆくべし

○求めざして大安楽の境秘決

一　及むもぞかでら同の出かしてさらくたしへの考家江神武帝よりかく来かくのごとく治まる御代ゝを照し仁徳の帝の清代の聖代と成てむかしや世で今の代まで及ふ届くを妙しまして保元平治の比より末盛衰記太平記の乱に事世の大乱となりて足利時代の乱むもしく干戈騒擾の中なるに今をものいくさの上海浬に吸歓にて讀てなのぐさとも絶にむかりなりくのごとき乱世に生れ来りしならめ何

世ハ乱世よお造化の気虚し万人軒減耗なりき
ハ米穀諸物も乏しく飢饉も打続き百姓の労役もお
ほく父母兄弟妻子等の親属の及羅横死あるの
ミそ又時行疫病其外病難も多し扨また営生も業
も意のまゝよなしがたければ貧苦ハいふよ及ばず腹の中
より干戈の音絶ずして一生いくさの中まて死ゆる
人のなかりしや今ハ平世よ粮絶たくはへなくしても
飢ず凍ず小児よ千里の旅をさせても指さゝる人もなし

し扨ま衣服食物の花美なること往古ハ勿論百年
ば前よくらべても十倍といふべし苦を経ずハ一楽も給ざる
ぞと云如くかゝる太安楽の代なれバ外よ苦しミの
なきまゝよ貧苦を世上第一の患として貴賤とも
まよもてなやまれ脾胃のはたらき人の速く消食を
病と覚えるかなし今の貧者ハ古人の長者な
る事を知らざれバ古しへハ貴人高位の人も世を
遁れ山林よ身を隠し命を保つ世ハなきぞハあひなし故

木乃実を食ひて身を全し或ハ剃髪染衣乃身となりおきなからぬるらんじを焚きてすゝめ給ふか今ハ出家も安楽世界を見、五濁乃悪世とそしる僧も必極楽と思ひての門ちがひをなげくべし娑婆即寂光の浄土とハ今の御代なるを知るべし常永當世の腐儒も泰平乃化育を食ひふくまき錦乃代に国恩乃ちをきまで今乃世ハ先王乃御もなくまゝ古のもしと己が身を棄ておて文王の

車をまちかね下心で生涯不足を懐て死するもあるにおもふむかし孔子ハ儒者乃親方として世々の賢人堯舜乃代に取かへさんと世話をやき諸侯へとも思ふようにいかぬを不足をいひこがれ死にし給ふ人にてなくぞや時に今ハ腐儒も儒者乃及ぶべき事なれ今の世は代々の聖賢乃遺訓により且はありがたき代に生れ海のうち山のおくまで普く五倫乃道行はれ　上乃仁徳及ばざる所なし　堯舜乃御

代といへども此上乃飽食もあるまじ此上乃衣類もかさねらるまじければ外に楽しみを求めず只いにしへ乃乱世にくらべ今の世に生まれたるを大幸として天恩國恩のありがたき事をわきまへ驕奢をこらへて心を安じ家業を楽んで日をおくる是を大安楽の秘傳といふ

○文盲なるものゝ古哥へ下の句を付けるを極秘傳

一古哥新哥よりも上乃句を案ては早速に為ればよし事でも今ぞそれ事にとつけてよしたとへば忍ぶど名よりても秋恋を恋しとなつけても今ぞ思ふあしかくのごとく付て一切乃哥は下乃句となる事妙なり

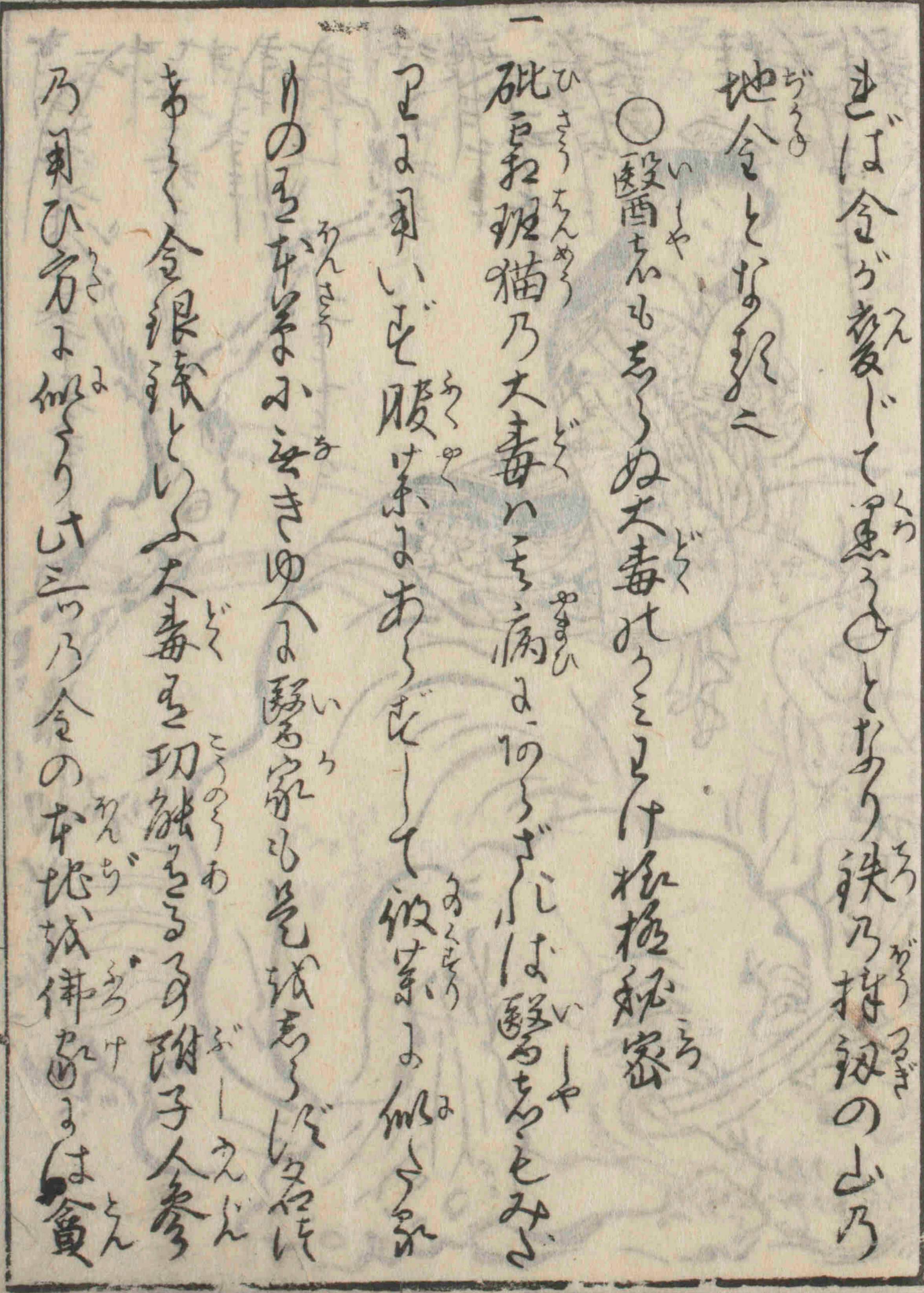
○人間萬事は中に渡世家業一字に込めて秘決

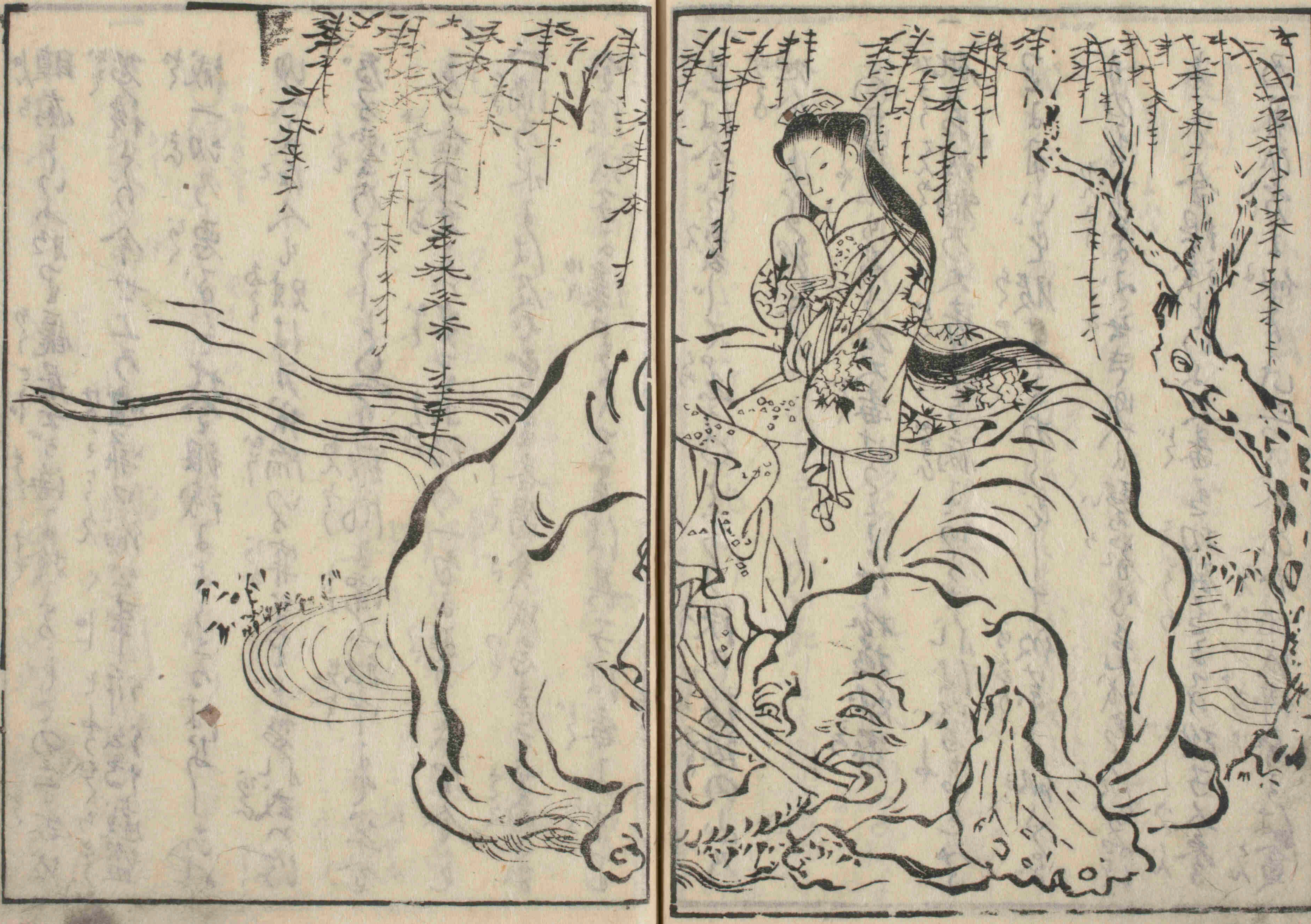
一神仙は格別凡俗人と生まれ人倫乃交をする人は上

上人より下万民に至る迄僧出家知識隠遁の境界なりともなづまる処が金の二字に迷ひて千変万化の世渡りとなるとも此一字をまもらずしては一年をおくる事もあるまじぞ仏法にては是を万法帰一といへども今の出家は是を万法帰金と翻按し無銭の衆生済度しがたしといふ事ありされば此金の字をばく我身ひて一生悪心なきものは死して後も成仏し黄金のかうざとはなる邪利益是なく用れば金が変じて火の車となり鉄の杖剣の山の地獄となる事也

○医者にも知らぬ大毒ある事は極々秘密

一　砒霜斑猫の大毒は毒病に用ゆるなれば医者もみな是を用ゐて服薬にあやまちして毒薬に飲むなし　りの毒本草に無きゆへに医家も是を知らずなるは其く金銀銭といふ大毒を功能ある附子人参の用ひ方に似たり此三の金の本地は仏欲にては貪





瞋癡といふ物は龐居士が海に捨られしこの三毒を恐らくは今世上乃喧嘩口論公事訴訟博戯盗賊一切乃悪事にて金銀銭によらざるはなしそれゆへに古人も財は身を陥いる寇なりと恐れ戒め浮たる雲乃ごとしといへり難風に漂ふ船中にて、千金も一合の米にも劣り末期乃一息にありては万金も一滴乃水には及ばず一生吝嗇義を忘れて蓄る家金銀を子に譲るべくあらば其子は毒に中る

却て貧病に劣るなりこれ古乃能毒をよくしみてけがしらく止最上乃良薬を化して至極に欲乃皮ざひぬに納らく無慈悲乃錠をおろしあまたにろなくたくはへぬれば覚へず毒気に中るなり必然たるべし

○細糸にて熊野猿を繋ぐ秘術

一女乃髪の毛にてよれる綱には大象も能く繋がると古人もいへり況やくまのの猿はいふまでもなくつな

ぐるしきよ人びしげる又縄（おほなは）まの美人（びじん）の髪（かみ）乃毛（け）二筋（ふたすぢ）三筋をより合せ女乃爪（つめ）をとりつぎとし今風乃笄（かうがい）を鉄鞭（てつべん）乃代（かはり）に用てよしさらバ心を表しいにしへ此九郎判官（はんぐわん）新田義貞（にったよしさだ）等（とう）乃勇者（ゆうしや）さへ皆美（び）人乃髪（かみ）乃毛にまとはりて各（おのおの）ふかく敵取に縛（つな）へ宍大淵三郎ハ源乃よりよしまつゑて奥州（おうしう）乃合戦（せん）に数度（すど）の高名（かうみやう）をあらはしたる勇士（ゆうし）なれども女房（にようばう）の怒（いか）れる顔（かほ）ばせを見ておそろしくおもひ

ければ心を起（おこ）し出家（しゆつけ）遁世（とんせい）の身となる是時人之を歎（たん）じて云くかの勇者（ゆうしや）さへ女乃嗔恚（しんい）のおそろしきに剃（てい）はつするにあらずやと

四終

○当世風の仙人になりて長命を求る極秘

一古今の彭祖のハ仙人にならんとおもへハおほし元來仙術を得るの始め深山に入禅に達し五穀を絶ち丹薬を煉金石を服し不老長寿を得て此術を得るもといへとも当世風にはまことに無益にし仙人といふ字は山人と書なり山居の便は俗人に勝して賢人君子世を遁て山林に入る人おしへりなびてさぞへりし

すべて山中に住む人ハ命長し市中に住ものハ八九十
迄もつものハなし素問にも山家壽の海濱夭といへ
り山家乃人ハ雜穀を食ひ身を勞て静に月日を
おくるゆへなり海邊は魚鳥の美味を食ふゆへ命
縮しかれば何事も金銀にて及ぬはなしと
いへども命乃事ハなりかぬると見へて秦乃始皇も長
命の藥を求て換金を施せしより法花經には此經を受
けバ病即滅し不老不死なるとあれどもいまのいのち

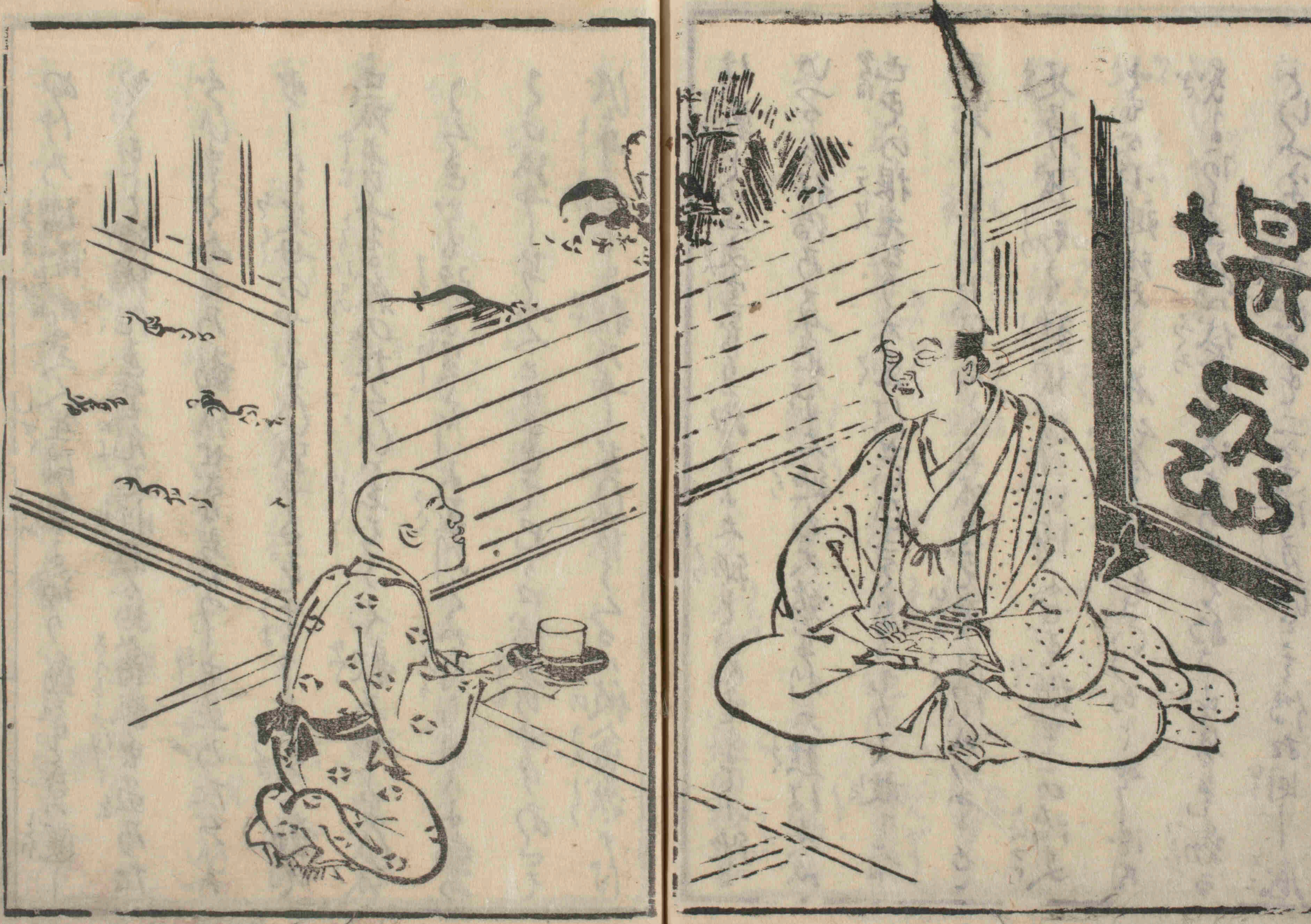
是非なる事もなしされバ仙人乃一局打碁を見る斧
乃柄ハ腐て數百年を經たりと云仙人もつねにハ死せ
ぬものなりとおもへばいつとても死ぬる間に命の有
きはまりより仙人の長命ハ縦ハ一日を百歳とせよ
もて短き月日をつひやさしく大晦日に一念の殘燈
して年ハ越ても白髪身より年々月をつひやして
さいふにたまらぬとしなれば千年いきても死ぬとは
ち夢のよふに暮しさと朝に勞へる若儒に生を志

らざれバ死ハ知るべからず死ハ仏にして不生不滅也と
いひ道家にハ死してほろびざるものハ命長しといふ
外に工夫あるべき事なり

○打出乃小槌ハ仏家の極秘伝

一打出の小槌ハ大黒天の宝物なり小槌とハ人の身ハ秘書し
るなり是ハ拳印といふ世話に捨に追はく契之
なしといふごとく金銀財宝ハ手のもとで　さき乃働哉
よりこき出るなりこまよりて打出の小槌の極意

は勤といふ文字なり働するに大槌といひぞして小槌と
いへるも秘伝乃ゆゑなり大槌も大欲界の利　大欲は身ハ成
亡ぶもの根元なり大事はせいひきく為りなりて敵でも
乃先きころをも下ハ紙見えて上ハ紙見えども廣き内ハ紙ツかまをも
足るを知らく欲をほしいゆゑに世をも縦へ世上の階丈
ともが小槌ハ見んて右詔令吉がおさいつわりし起
義にはつざれバ袋の口を志めておさまさぬも皆是勤る
といふ字ハ打出とも二字護身方法とも伝れ同じ底


堪忍

ゆへ乃陶淵明が云人生は勤るにあり勤るときハ匱しからずと詩を作れり凡そ性ある物禽獣虫魚乃たぐひまで今日乃勤をせざるハなし虫魚乃たぐひハ少しも父母のやしなひをまたず生るゝとし直に勤て口を養ふ鳥獣のたぐひハ志ばらく親乃やしなひをうくまでも既に羽生りに翼くれハ自ら日〻に勤めく口を養ふ人と生まれて己が口を養ふ事あるさへ況や年長ても親乃やしなひ受くるハ彼禽獣にも劣れり甚だ恥べき事なり

○堪忍乃玉を造る極秘伝

一切萬事兎角堪忍をすれバ十に九ツハ皆治る事なり古語に曰莫大乃禍は須臾乃忍びざるに起ると云或ハ一朝乃怒に其身を忘れ以て其親に及は惑ひにあらずやこれもいつも此堪忍といへハいたつてむつかしきものに見へて忍乃字ハ心と云字乃上に刃といふ字を置けるハ何もこらへる意なり○

に丸ハ我押しのてゐひさきすも志りしひとくに此度に
見ゆるうゐの人ハ〳〵人倉に有りてなる蕾は怪異ハ我身に
命ハ我延へ禍除き一生免れさもつ乃良薬なるし
又怒りにたへがたき人ハ手腹乃内にてきさし静まる者なる
て能座しきが頂乃上に如意宝珠として玉我さ
まさる我思ひ我うしし化合、なくば忽ち魔おちざるなり
稀なるべし気癖の止むるなり其術之

○大なる福を得る口伝極秘法

一　古人乃云く福ハ禍なきよりさいはひなるはなしと故に
今日無事にして禍なきハ大き成さいはひなりと志
るべし尚書にも無病長命なる我五福乃其一とせ
り我れば福乃字ハ百順乃名なりと注して家内
和順和睦なるハ其さいはひなるすがたにして易に天
道は善人に福し不善人に禍とあるハ我見るく不善
人に滅亡し金銀我授我にし我ゆる善人も貧窮なれバ
まゝ川て天に恨我まるに至るは大きなる我る違ひ

なり今日禍なくして暮(くら)れバ大き成仕合(しあはせ)となれど

○一生落(らく)る事せざる法

一 落(らく)る事恐(おそ)るゝものハ馬(うま)にのるとも して加る路地(ろぢ)にの象 べし 落る事せざるの術なり されバるにのるもの乃ハ 落泊(おちぶるゝ)る人ハ又位ひくてなるも豪富(かねもち)ハ貧乏(ふびん)に落る氣(とう) ゆゑ万事落めくのでしかるがゆへに賢(けん)者ハるきに居てるきに居るも富貴(ふうき)に居て富貴に於ても是なるして危(あやう)からざるゆへむなり

○三尸(し)虫を去り無病長命福禄を得る極秘術

一 道家(どうけ)の説(せつ)に人の身に三尸(し)虫といふ虫ありて人の善(ぜん)悪(あく)をしるべし庚申(かうしん)の夜是を天帝(てんてい)に訴(うつた)へ人の寿命(じゆみやう)をちゞむると云けり此虫乃出(いで)居を三悪(あく)居と云一つにハ惜戯(おくち)二つに好色(かうしよく)三つにハ大酒(しゆ)是なり右人ハ酒財色(さいしき)三つを去り離れて安(やす)しと自勝(じまん)さるゝも今ハ太平乃世なる故酒情(なく)色を三悪(あく)居と云本(そとし)是身口意(しんくい)乃三業(ごう)より出る三毒(どく)となりて身を亡(ほろぼ)し三途(づ)の業(ごう)を積く是に記

三の虫なるべきなり然れバ三悪ともに具足しける人ハ天
地人の三才に見もはなされ三宝荒神に罰を蒙るべき身
上ハたもつ事ハなるまじ右三虫の内一ツをもあへて心底に
有なり此三ツより出る禍ハ親兄弟妻子親属朋
友近の者命をおとしむるに至る事自ら工夫をめぐらし
よく此三虫を去るべし

一町人百姓の民家業ハ居ながらに考へ出も妙秘決

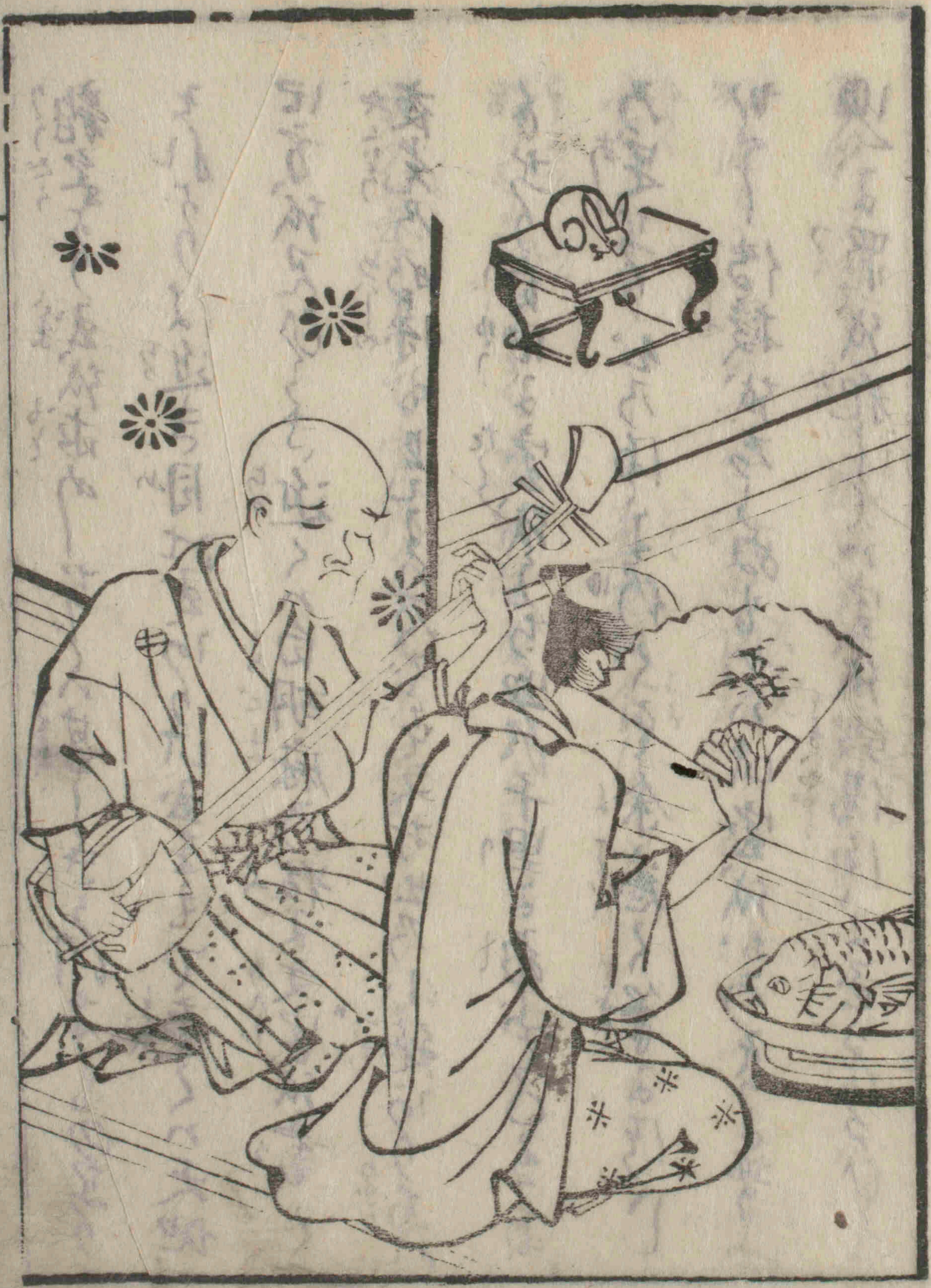
一夫町人百姓乃家業ハ考ふるに先祖ハ国常立乃
尊を始として伊弉諾伊弉冊のあらはれより伝へたるこれ
身なれバ幾何万年を経るも志らぬ家業も
たのもしきなれども数万年乃星霜を歴されバ
むかしを今に忍ぶまするとたとへたり家業ハなくとも
眼耳鼻舌身骸髪膚ともに恐れなき継上
一人より下ハ万民に至るまで皆同しきなる神孫に
ちがひなく人間の形なりと境界にハ千変万化乃世
渡世あるとも此骸ハちがひなし是則書もの系図

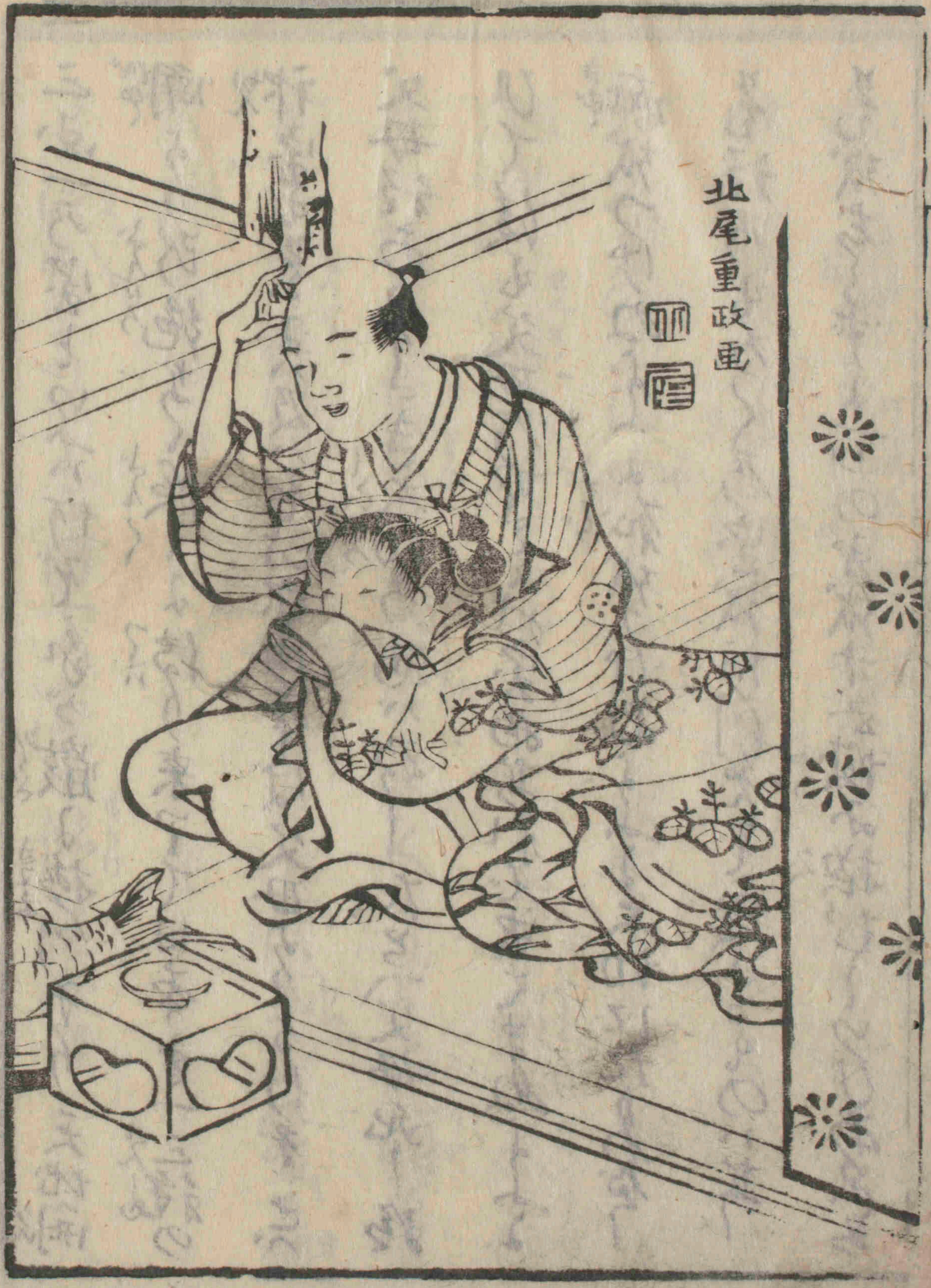
よりハ嬢なる家縦接なる立あるこそ生れつきたるゆゑ女はかどうかしときより乙きようハさべくはくざるん

たとへ身の上は賤しき世渡りを致すとてもこゝろざし下さざる先祖を恥かしめざるやうにまもるべし淫業人三口経此人なりとも或は系図正しき人なりとも魂魄が也さがり先祖の面を汚も阿房なれば系図も有る毒乃毒なり

○経費なしに三国一乃宝を儲る授秘傳

一　三国一乃宝といふハ何ぞ女の陰戯に授りきたまり天地開闢より以絶なく脈々と傳り来りて日本第一三種の神宝も是にハ及バず此宝の事ば父母よりうけ来れバ父母猶ありがたき大切乃あハれ然したとへ父母死し給ひて後も父母乃かたみの宝抱なれば虫をませぬやうに疵をつけぬやうに恥をうけぬやうに大切にたもつべし是猶乃もろく乃宝を何ハ兎角女たるものハなり是を志らずに一口の玉を十五城に換むといひあるいハ




北尾重政画

龍宮よりたまを求めしなどハ甚しきあやまり有ものなり
それよりは近き目の玉なり此玉をもて遠くハ天地
四方を見ひらき近くハ白胡麻乃粒に文字を書く
夜光乃明珠も見えずハ及ばず又打出乃小槌なり[illegible]
手なり自由に宝をうち出し千里に飛ぶ[illegible]
乃足なり己乃隨に行くを余悉く筆に尽くし
がたし傳授を志らぬものハ此宝をおろそかに扱ひ
ゆへに罪を犯しては宝を毀傷[illegible]

またハの金銭に慾をもりて此寶をうしなひ又ハほし
いまゝに酒をつぎ人の肉換しあるひハみだりに飽
食しあるくしく毒物を食ひて病をひき出し或は
好色に耽りて病を生ずるたぐひ皆是此宝を[illegible]
其の基にして宝を[illegible]と思はざるゆへ也

大尾

發行
書林

京都三條通柳馬場角　堺屋仁兵衛
大坂心齋橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛
同　南久寶寺町　伊丹屋善兵衛
同　北久寶寺町　河内屋源七郎
同　博労町　河内屋茂兵衛
尾張名古屋本町三丁目　菱屋藤兵衛
同　土丁目　菱屋平兵衛
東京日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　二丁目　山城屋佐兵衛
同　同　須原屋新兵衛
同　芝神明前　和泉屋市兵衛
同　横山町三丁目　和泉屋金右衛門
同　淺草茅町二丁目　須原屋伊八
同　本石町二丁目角　椀屋喜兵衛

安淵廿九年八百五十三

[illegible]